平成30年度 富山国際大学 学務部自己点検評価報告書

I. 概要（現状と課題）

II. 委員会・部会（評価・課題）

1. 学務委員会

(1) 学務委員会

(2) 教養教育部会

(3) FD推進部会

(4) 教職課程委員会

2. 図書館委員会

3. 情報センター運営委員会

4. キャリア支援センター運営会議

5. 国際交流センター運営会議

III. 業務運営状況（評価・課題）

1. 教務課業務

2. 図書館業務

3. 情報センター業務

4. 学生課業務

5. キャリア支援センター業務

6. 国際交流センター業務

IV. その他

平成31年3月

富山国際大学 学務部

I. 概要 (現状と課題)

学務部各部門における平成30年度実施内容については、平成30年度から始まった5か年計画のアクションプランで設定した達成目標を含め、実施した内容について取りまとめた。

1. 教務系部門 (教務課、情報センター、図書館)

平成29年度からスタートした副専攻プログラムに関しては、当初グローバル人材育成プログラムに14名(後に1名辞退)、地域創生人材プログラムに15名の申請があり、興味を抱いてくれた学生が一定数いた。平成30年度終了時点では、各プログラムで1名ずつの修了者を送り出すことができ、今後申請者のアフターフォローを遂行しながら、引き続きグローバル人材、地域創生人材の育成の支援にあたっていく。

難産だったWebシラバスもある程度軌道に乗り、今後の積極的な活用が必要となる。シラバスにおいては特に、事前・事後学習とアクティブラーニングに関する内容をより詳細に記述するように教員へ周知した。

また、学修意欲を評価するGPAを活用した「退学勧告」制度も学生や教職員に周知されるとともに、2019年度からはGPA優秀者に対するキャップ制の緩和も検討し、19年度からの運用の見通しを立て、学生の勉学意欲の向上を図っている。

学生への教育活動は3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)に基づいて進められているが、このうちカリキュラムポリシーに定めのある「教育評価」については、より具体的な評価方法を検討する。ディプロマポリシーに掲げる能力の習得について、学生がより実感できるような方法を、数値化の可能性を含めて検討していく。

情報分野では、スマホ慣れした学生に向け、就職・教育現場等で必須活用となるパソコンを斡旋し利用促進に努めたところ、平成30年度では新入生全体で180台余り購入し使用している。そのためのネットワークサービスが肝要であるため、特に呉羽キャンパスのネットワーク環境が今ひとつ高速接続とならなかった点をNTT西日本等の業者側の機器交換等の依頼を行ったところ、安定したネットワーク環境となった。今後は、更なる高速化に向けて検討していく必要がある。

図書館の利用状況は、昨年度に比べ本年度は現代社会学部では貸出冊数は増加したものの利用率が鈍化し、子ども育成学部では、短大と共有していることもあり全体として昨年度より利用率は高まっている。今後特に現代社会学部では更なる利用率アップの方策を提示していく必要がある。なお、図書館業務として関与している紀要の発行に関しては年2回の発行を軌道に乗せた。また紀要の掲載数や試読等の課題について引き続き学内調整が必要となっている。

2. 学生支援部門 (学生課、キャリア支援センター、国際交流センター)

本年度取り組んだ内容として東黒牧キャンパスにおいては、自然環境との共生の場にふさわしい緑化・花づくりなど心地よい環境づくりに加え、昨年に続き、学長裁量経費(学務部申請)の採択を受け、冬場の賑わい創出の一環として学友会と学務部関係教職員とが協働でクリスマス・イルミネーション、クリスマスツリーの設置を行うとともに、ハロウィンの飾り付けをして、構内での雰囲気を活気づけた。さらに、食堂のメニュー改善や文房具、お菓子販売などのミニ売店設置など学生の意見を取り入れて生活環境の整備に取り組んだ。

呉羽キャンパスにおいては、自学自習できる設備環境を整え、クラブ・サークル活動でも昨年度より一層充実した活動ができるよう継続的に資金面で配慮した。ボランティア活動も年々広まりを得て、地域参加が増えている。

経済的な支援を要する学生への奨学金支援、諸活動入学生への文武両道精神の醸成としてGPA(2.0程度)の厳守と厳格な指導を心掛けた。さらに、富山国際大学らしいあり方として留学生との交流(チューター制度導入)を実施。学生の提案型事業である「夢への架け橋事業」については、平成29年度は8件で平成30年度は16件と応募が増したが、応募情報等をもう少し早めに提供し、教職員と学生の協働体制を更に推進する必要がある。来年度は、件数が増加傾向にあり審査に必要な資料を事前に提供して、審査のスピード化と伴に内容重視で絞り込む必要がある。

豊かな学生生活を送るための支援活動として、学友会などの活動を教職員が積極的に支援し、大学行事であるスポーツ文化交流会、大学祭なども学生と教職員との連携によって行った。

現代社会学部・子ども育成学部とも自動車での通学学生が多いため、「学生の駐車指導」をはじめ、事故を未然に防ぐための「交通安全指導」について警察の協力を得て教職協働で注意喚起を図っている。特に、東黒牧キャンパスでは、平成30年度も学生と職員で交通安全キャンペーン活動を毎月1回継続して実施しており、東黒牧近辺で起きたかつての痛ましい事故の記憶を風化させない活動を今後も継続する予定である。

国際交流に関する支援では、現代社会学部の留学生へのケアや全学学生の留学をサポートしている。

キャリア支援に関しては現代社会学部、子ども育成学部ともに就職率100%を達成した。また有力企業への採用の占める割合も金融関係、上場企業の占める割合が上がった。平成30年度の傾向として、平成29年度に引き続き重複内定者増により、企業に迷惑を掛けないように学生指導をした。新たな試みとして「平成30年度就職活動に向けた企業研究会」を実施した。子ども育成学部でも、専門職である小学校教諭、保育・幼稚園教諭の採用が前年度水準を維持し、社会福祉士の合格率も全国で上位の合格率となっている。

平成30年度学務部事業については、四年生アンケートで特にキャリア関係の満足度が高い一方で、前年度よりやや低くなっている項目もある。スタッフ数の減少、職員の高齢化などもあるが、学生の自立の低下に伴い、相談時間が増し、現在の配置では限界に達している。加えて、労働基準監督署から就業時間管理の指導を受け、学生対応と輻輳する大量の事務処理を就業時間内で完結することが困難となっており、それによる学生満足度の低下が懸念される。事務業務の省力化ばかりでなく、補助業務者の手当等も含めた対策が喫緊の課題である。

3. 基本情報

- 平成30年度 在籍者数（平成30年5月1日現在）

平成30年度富山国際大学在学者数

2018/5/1 現在

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
				1年生	現代社会	現代社会	129	88	41	106	23
		休学	2	1	1	2		1	1		
	子ども育成	子ども育成	91	16	75	90	1	16	74	0	1
		休学	0								
	合 計		220	104	116	196	24	89	107	15	9
		休学	2	1	1	2	0	1	1	0	0

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
				2年生	現代社会	現代社会	107	67	40	89	18
		休学	1	1	1		1				
	子ども育成	子ども育成	114	22	92	110	4	20	90	2	2
		休学	0								
	合 計		221	89	132	199	22	78	121	11	11
		休学	1	1	0	1	0	1	0	0	0

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
				3年生	現代社会	現代社会	102	61	41	71	31
		休学	1		1		1				1
	子ども育成	子ども育成	91	21	70	85	6	17	68	4	2
		休学	0								
	合 計		193	82	111	156	37	65	91	17	20
		休学	1	0	1	0	1	0	0	0	1

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
				4年生	現代社会	現代社会	124	85	39	102	22
		休学	1	1	1		1				
	子ども育成	子ども育成	96	24	72	91	5	23	68	1	4
		休学	1	1	1		1				
	合 計		220	109	111	193	27	98	95	11	16
		休学	2	2	0	2	0	2	0	0	0

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
				全学年	現代社会	現代社会	462	301	161	368	94
		休学	5	3	2	4	1	3	1	0	1
	子ども育成	子ども育成	392	83	309	376	16	76	300	7	9
		休学	1	1	0	1	0	1	0	0	0
	合 計		854	384	470	744	110	330	414	54	56
		休学	6	4	2	5	1	4	1	0	1

※表内人数には交換留学生を含まない。
 ※合計には休学者数を含む

・平成30年度 退学者数等 (平成31年3月31日現在)

《現代社会学部》

	1年(30年度)	2年(29年度)	3年(28年度)	4年(27年度)	計
入学者数	127	108	94	116	445
3月末現在在籍者	126	105	90	105	426
留年者数	0	1	0	2	3
小計	126	106	90	107	429
退学者	1	2	4	9	16
退学率	0.79%	1.85%	4.26%	7.76%	3.6%

《子ども育成学部》

	1年(30年度)	2年(29年度)	3年(28年度)	4年(27年度)	計
入学者数	91	116	89	94	390
3月末現在在籍者	91	114	87	92	384
留年者数	0	0	0	0	0
小計	91	114	87	92	384
退学者	0	2	2	2	6
退学率	0.00%	1.72%	2.25%	2.13%	1.54%

・平成30年度就職内定状況

平成31年3月31日現在

単位：人

学部	性別	学生数	内休学者数	卒業者数	就職希望者	内定者	内定率	未内定者	進学・留学希望者	内進学留学決定者	進学も就職もしない	卒業延期者
現代社会	男	84	2	82	74	74	100.0%	0	4	4	4	1
	女	37	0	37	28	28	100.0%	0	4	4	5	1
	計	122	2	119	102	102	100.0%	0	8	8	9	2
子ども育成	男	24	1	23	22	22	100.0%	0	1	1	0	1
	女	72	0	72	70	70	100.0%	0	2	2	0	0
	計	96	0	95	92	92	100.0%	0	3	3	0	0
合計	男	105	2	105	96	96	100.0%	0	2	2	6	0
	女	106	0	109	98	98	100.0%	0	8	8	3	1
	合計	211	2	214	194	194	100.0%	0	10	10	9	1

※上記表には、現代社会学部9月卒業生8名（男子1名・女子7名）を含む。

・平成30年度図書館基本情報

【貸出冊数】

＜東黒牧キャンパス＞

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大学生	冊数	92	148	100	161	31	3	95	154	141	143	25	0	1,093
	人数	50	85	53	78	15	2	55	85	84	76	13	0	596
研究生	冊数													0
	人数													0
聴講生	冊数		1											1
	人数		1											1
大学教員	冊数	13	26	2	12	11	9	21	12	15	7	15	2	145
	人数	3	8	2	5	3	3	5	4	9	1	4	2	49
非常勤講師	冊数													0
	人数													0
職員	冊数	1	1	2	2			3	1		1	1		12
	人数	1	1	1	2			3	1		1	1		11
臨時職員	冊数	5	5	6	6	17	4	12	14	7	9	12	16	113
	人数	5	4	6	6	11	2	10	8	6	5	7	9	79
学外者	冊数		1	2	2		6		1			1		13
	人数		1	1	1		2		1			1		7
計	冊数	111	182	112	183	59	22	131	182	163	160	54	18	1,377
	人数	59	100	63	92	29	9	73	99	99	83	26	11	743

＜呉羽キャンパス＞ 短大図書館利用者を含む

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大学生	冊数	148	529	383	367	160	32	593	499	451	253	60	10	3,485
	人数	79	242	204	215	64	14	281	233	225	134	30	6	1,727
短大生	冊数	144	345	478	389	104	59	335	262	175	139	15	12	2,457
	人数	82	238	318	217	42	28	176	141	102	71	9	5	1,429
研究生	冊数	9												9
	人数	2												2
大学教員	冊数	11	8	33	25	11	5	32	43	15	22	28	23	256
	人数	12	8	11	10	3	2	14	11	8	8	6	8	101
非常勤講師	冊数	3	14	22	17	16	10	18	14	28	25	9	20	196
	人数	5	9	10	6	4	4	11	8	16	13	3	7	96
高校専任教員	冊数		3				4			5				12
	人数		1				1			1				3
短大教員	冊数	45	56	54	60	29	50	70	52	55	30	45	28	574
	人数	19	23	20	31	20	19	27	21	22	12	17	13	244
職員	冊数	26	42	37	37	60	35	79	48	72	51	48	32	567
	人数	14	24	20	15	33	15	31	33	37	26	25	18	291
幼稚園	冊数													0
	人数													0
学外者	冊数		1	2	2	2		4					1	12
	人数		1	1	2	1		2					1	8
合計	冊数	386	998	1,009	897	382	195	1,131	918	801	520	205	126	7,568
	人数	213	546	584	496	167	83	542	447	411	264	90	58	3,901

【入館者数及び開館日数】 ＜東黒牧キャンパス＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入館者数	1,057	1,230	1,190	1,342	528	140	1,223	1,303	983	1,172	440	179	10,787
開館日数	20	21	20	21	20	18	22	21	18	18	19	19	237
1日平均	53	59	60	64	26	8	56	62	55	65	23	9	46

II. 委員会・部会（評価・課題）

1. 学務委員会

(1) 学務委員会

【目標】

富山国際大学学務委員会規程第2条に規定する審議内容のうち、平成30年度は主に次の事項を議論した。

- ① 元号変更に伴う2019年度学年暦について
- ② 学則及び教育課程表の改正について
- ③ 履修規程等の改正について
- ④ 学生指導(処分)について
- ⑤ その他

【実施内容】

・構成メンバー：

大谷学務部長、大藪学務部次長、佐藤(悦)教授、佐藤(綾)准教授、谷脇講師、松山准教授、竹田講師、金子講師、南呉羽キャンパス事務室事務長、岩木学生課長、酒井教務課長、石黒係長（以上12名）

・会議内容

開催日時・場所・出欠	審議事項	報告事項
平成30年4月6日（金） 16:30～17:30 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：12名 欠席：0名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則の一部改正について 2. 子ども育成学部編入学生の単位認定(案)について 3. 富山国際大学と富山短期大学との連携について 4. 平成30年度年度全学学務委員会委員担当業務・開催日程(案)について 5. その他 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成30年5月2日（水） 13:30～14:25 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：12名 欠席：0名	<ol style="list-style-type: none"> 1. COC+事業等推進について 2. 学生の学籍異動について 3. スポーツ文化交流会及び立川志の輔師匠の講義の実施について 4. 富山国際大学学籍異動手続きに関する規程の一部改正について 5. 学生団体結成願について 6. その他 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成30年6月6日（水） 13:10～14:40 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：10名 欠席：2名	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターナショナルプログラムズ（長期）単位認定(案)について 2. 第1種奨学金について 3. 奨励金について 4. 奨学制度について 5. 夢への架け橋助成事業について 6. 学生団体結成願について 7. 再試験制度の在り方について 8. Web シラバスによる学生生活アンケート及び卒業アンケートについて 9. (一社)学修評価・教育開発協議会における国内留学制度について 10. その他 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成30年7月4日（水） 13:20～14:10 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：12名 欠席：0名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学籍異動について 2. 授業アンケート実施(案)について 3. 2019年度学年暦(案)について 4. (一社)学修評価・教育開発協議会について 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他

	5. その他	
平成30年8月1日(水) 13:20~14:40 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:11名 欠席:1名	1. 海外インターンシップの単位認定(案)について 2. 再入学に関する規程の改訂(案)について 3. 後期オリエンテーションについて 4. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成30年9月5日(水) 9:30~10:30 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:9名 欠席:3名	1. 学籍異動について 2. 9月卒業・10月入学について 3. 研究生の受入れについて 4. 学則の一部改正について 5. 保育士養成課程履修細則について 6. 後期時間割(案)について 7. 学生団体結成願について 8. 私立大学等改革総合支援事業について 9. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成30年9月27日(木) 13:10~14:30 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:10名 欠席:2名	1. 学生の学籍異動について 2. 学生生活アンケートについて 3. 学生の不祥事について 4. その他(3つのポリシーにかかる学生との懇談について)	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成30年10月3日(水) 13:30~13:50 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:12名 欠席:0名	1. 学生の学籍異動について 2. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成30年11月7日(水) 13:10~14:50 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:12名 欠席:0名	1. 学生の処分について 2. 平成31年度学年暦について 3. 履修規程等の改正について 4. 障がい学生にかかる支援について 5. 平成31年度予算要求に関する事項について 6. 学生の学籍異動について(新規及び追認) 7. 2+2編入学生の単位認定について(追認) 8. インターナショナルプログラムズ(長期)の単位認定について(追認) 9. その他	
平成30年12月5日(水) 13:10~14:50 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:12名 欠席:0名	1. 学生の処分について 2. 学生の学籍異動について 3. 学年暦(現代社会学部修正案)について 4. 平成31年度研究生・科目等履修生募集要項について 5. (一社)学修評価・教育開発協議会における国内留学制度について 6. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成31年1月4日(水) 16:00~18:15 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:12名 欠席:0名	1. 学生の学籍異動について 2. 学則の一部改正(現社分)について 3. 履修規程等の一部改正について 4. 平成31年度学年暦(案)について 5. Webシラバスの入力要領について 6. 後期授業アンケートについて 7. 卒業生アンケート(Web版)について	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他

	8. 学生便覧の編集方針について 9. 障害による修学支援等について 10. その他	
平成31年2月6日(水) 14:20~15:50 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:12名 欠席:0名	1. 学則の一部改正(案)について 2. 富山国際大学学生の懲戒に関する規程改正(案)について 3. 市民聴講生用公開授業科目及び大学コンソーシアム富山単位互換科目について 4. 副専攻プログラムの修了要件について 5. 学長賞推薦(案)について 6. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他
平成30年3月2日(金) 13:10~15:00 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:12名 欠席:0名	1. 平成30年度卒業判定及び卒業生代表について 2. 3年次進級判定について 3. 副専攻プログラムの修了認定等について 4. 平成31年度時間割(案)について 5. 平成31年度前期オリエンテーション日程について 6. 現代社会学部の履修に関する規程の一部改訂(案)について 7. 教職課程の履修規程(案)について 8. 市民聴講生募集要項及び大学コンソーシアム富山単位互換科目(案)について 9. 学籍異動について 10. 研究生の受け入れについて 11. インターナショナルプログラムズ(長期)の単位認定について 12. 「夢への架け橋助成事業」について 13. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会について 4. その他

【評価】

昨年度より実施しているWebシラバス、リメディアル教育におけるeラーニング、副専攻プログラムを本年度も改良等を行いながら運用してきた。特に副専攻プログラムについては、運用を始めて第1号の修了者を送り出すことができた(グローバル人材育成プログラム1名、地域創生人材育成プログラム1名)。この後、修了学生自身が社会に出て力を発揮していただくことを期待する。

さらに本年度は、昨年度の場合だった退学勧告制度に伴う規程等の最終調整を行うなど種々実施した。

また本年度は、学生の不幸事や処分に関しての案件が年度中間時に発生し、対内外への対応などに追われてしまった。

【課題】

副専攻プログラムについては、本年度の対象者がグローバル人材育成で5名、地域創生人材で1名であったにも関わらず、グローバル人材育成プログラムが1名となったのは、検定が合格ラインに達しない学生が多かったためであり、その理由として彼らが3年生のときにプログラムが開始したために検定試験に対する準備期間が十分でなかったことが考えられる。

また、学生の不幸事等については、改めて学生指導についての課題が残り、さらに今後の懲戒処分に関しても見直し等が必要になった。

その他、次年度に向けては学園全体の情報教育センター構想があり、案件となっているeポートフォリオなど教育情報システムの導入については、そのセンターの方針等に基づき整備する必要があると思われ、今後も検討を続けていく。

(2) 教養教育検討部会

【目標】

1. 2018年度の教養教育について

① Tuins e-Learning の運用について

認知度も低く稼働率も低い。今年度、現代社会学部では大々的に推進することを確認。

子ども育成学部では、SPI を使いたいとの学生（一般企業志望者向け提供）がいることから活用予定。

② 教養特別講座の積極的推進について

授業の開講日を検討する必要があるのではないか（平成 29 年度は子ども育成学部では実習と重なった）。

4 年次生の参加もできるよう、配当年次を 1・2・3・4 としており周知に工夫が必要。

③ Web 講義での両学部に通じた科目の開設について

Web 講義だと一方に張り付く教職員が必要で、その場合誰が準備も含め立ち会うのかが課題。

今後の検討課題として確認。

【実施内容】

・構成メンバー

佐藤(悦)教授（部会長）、大谷学務部長、大藪学務部次長、金子講師、南呉羽キャンパス事務長、酒井教務課長、石黒教務課係長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項	備考
平成 30 年 5 月 2 日(水) 14:30～14:45 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名、欠席：0 名	1. 2018 年度の教養教育について (1) Tuins e-Learning の運用について (2) 教養特別講座の積極的推進について (3) Web 講義での両学部に通じた科目の開設について 2. その他	
平成 30 年 8 月 1 日(水) 14:30～14:55 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名、欠席：0 名	1. 2018 年度の教養教育について (1) Tuins e-Learning の利用状況について (2) 教養特別講座の積極的推進について (3) 両学部に通通・類似科目の開講について 2. その他	
平成 30 年 11 月 7 日(水) 15:15～15:40 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名、欠席：0 名	1. 今後の教養教育について (1) 入学前教育にかかる e-ラーニングについて (2) 両学部共通の教養科目について (3) 放送大学について 2. その他	
平成 31 年 2 月 6 日(水) 15:50～16:00 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名、欠席：0 名	1. 今後の教養教育について 全学的な教養教育の在り方として、次の点について協議・確認 (1) 放送大学について 2. その他	

【実績・評価】

●目標①について

現代社会学部では、推薦入学者対象の入学前課題（スクーリング含む）の教材として活用した。

●目標②について

教養特別講座の受講生は、下記のとおり。

現代社会学部：20 人、子ども育成学部：0 人

●目標③について

検討中。

【課題】

① 2019 年度は両学部共通の教養教育の在り方を検討する。特に、富山大学等を参考に、バス移動、Web 授業等

可能な機材を使ってどのような教養教育が可能か再度検討する。

- ② 2019年度はeラーニングを使った教育の在り方を検討する。特に、リメディアル教育とSPI対策において、eラーニングを活用する。

(3) FD推進部会

【目標】

全国の学務系動向が理解できる研修会に参加し、その出張報告会を中心に全学的FD研修会を実施することで、全学的なFD活動への意識や成果を高める。

【実施内容】

- ・構成メンバー：大藪教授（部会長）、大谷教授、谷脇講師、南呉羽キャンパス事務長、酒井教務課長、石黒係長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項	備考
平成30年5月2日（水） 14:45～15:00 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：6名 欠席：0名	1. 2018年度の全学FD研修会について 2. その他	
平成30年8月1日（水） 14:50～15:10 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：6名 欠席：0名	1. 2018年度全学FD研修会について 2. その他	
平成30年11月7日（水） 15:35～15:50 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：5名 欠席：1名	1. 2018年度全学FD研修会について 2. その他	
平成31年2月6日（水） 16:00～16:10 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席：6名 欠席：0名	1. 2018年度全学FD研修会について ・全体FD研修会内容について 2. その他	

・研修内容

開催日時・場所・出欠	実施内容
平成31年2月27日（水） 13:30～15:00 東黒牧C 301室 呉羽C E406室 【教員参加率：81.0%】 教員出席：34名 欠席：8名 （現社：14名、子ども19名、 地域：1名） 職員出席：19名 欠席6名	平成30(2018)年度 富山国際大学FD・SD研修会 (1) 私立大学協会主催「教務部課長相当者研修会」報告について 全国の私立大学の動向について、私立大学協会の研修会報告を通じて情報共有する。 講師：学務部教務課長 酒井 誠 氏 (2) Web シラバスの入力について Web シラバスの入力方法や入力に伴う注意点などの説明を行う。 講師：学務部教務課長 酒井 誠 氏

【評価】

本年度の研修会も、全国の私立大学等の動向、事例を踏まえ、今後の本学の教育改革にどう繋げ、どう実現すればよいかを考察することを念頭に、今回は教務部課長相当者研修会での講演内容や情報交換した内容について、教職員間で情報共有を図ることができた。

【課題】

次年度についても、参加率を高める研修内容にしていく。なお、次年度は特にアセスメント・ポリシーの設定等教育の評価に関する内容について理解を深めていく必要がある。

(4) 教職課程委員会

【目標】

教育職員免許状取得の所要資格を得させるために必要な本学の教職課程の運営について審議し、教職課程の履修と実習実施に向けた資格ごとの計画立案・事前事後指導、及び履修科目の単位認定を円滑に実施させることを目標とする。平成30年度は教職課程の再課程認定申請をした後の審査結果を待ち、次年度から運用できるような体制づくりを行う。また、本委員会は全学学務委員会の下部組織として位置づけられている。

【実施内容】

・構成メンバー

仲井教授（委員長）、大藪教授、彼谷教授、辻井教授、福島教授、宮田教授、石倉准教授、河崎准教授、松山准教授、奥田講師、南呉羽キャンパス事務室事務長、酒井教務課長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項	備考
平成30年7月12日（木） 13:10～14:35 呉羽キャンパス2階会議室 出席：7名、欠席：5名	1. 教職課程認定(再課程認定)申請について 2. その他	
平成31年3月19日（火） 14:10～14:35 呉羽キャンパス2階会議室 出席：11名、欠席：1名	1. 教職課程認定(再課程認定)申請について 2. 教職履修カルテ活用マニュアルについて 3. 教職課程にかかる実習について 4. 幼稚園教諭免許状特例講座に関するこ とについて 5. その他	

【評価】

平成30年度の小学校教員採用試験合格者については、44名（既卒者15名含む）となり現役合格率としては64.4%となった。また、公立小学校教諭の就職については、現役生で29名、既卒者15名となり、学部起ち上げから総計136名の教諭を送り出したことになる。

免許取得に関しては、小学校教諭一種免許状取得者62名、幼稚園教諭一種免許状取得者71名と、概ね取得希望者の希望に添った結果を得ることができた。

また、教職課程の再課程認定申請については、何とか平成30年4月当初に提出を済ませることができた。

【課題】

平成30年度は教職課程の再課程認定申請書を済ませた後はさしたる課題もなかったため、委員会開催が少なかった感は否めない。今後は、2～3か月に1度開催するなどの定例化を図ることが必要である。

中期的な課題では、2023年度には、現在の保育士養成課程における科目を教職課程にかかる科目として位置づけることになる。そのため、それまでには、教科を担当する教員の実績が、確かなものである必要があり、周知を図っていかなければならない。

その他、小免許取得者はここ数年60名を超え、今後もこの傾向が続くことが予想される。しかし、進路は別にあるがとりあえず免許を取得しておこうという安易な考えの学生もいる。教員としての有資格者でありながら、資質、力量が不足している学生の増加が否定できない。実際に、平成30年度は小学校教育実習に62名参加（前年より1名減）であった。来年度はさらに増え70名の見込みがある。幼免許取得者も入学者数の割合で見ると70名を超える見込みである。

今後、小学校教諭養成に関しては模擬授業の形式や母校実習のあり方を、幼稚園・保育教諭養成も含めた課題としては、新たな実習協力校の開拓や継続的に教育実習の経験を蓄積できる体制づくりの必要性がさらに増している。履修カルテ等も活用しながら、質保障につながる工夫した指導を検討したい。養成から採用後の数年間、どのようにして教師力を向上させていくかが課題である。

2. 図書館委員会

【実施計画】

図書館委員会規程に基づき、重要案件を審議する。

【実施内容】

・構成メンバー

大西委員、川本委員、重本委員、仲井委員、本江委員、大平委員、(学部学務委員会委員) 佐藤悦夫委員、高尾委員、バブリー委員、酒井教務課長、石黒係長、市六主査

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議・報告事項
平成30年10月3日(金) 16:40~17:20 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:12名 欠席:0名	第1回図書館委員会 1.平成30年度紀要第1号 原稿の提出状況について 2.平成31年度購入外国雑誌について
平成30年11月26日(月) 16:30~17:45 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:8名 欠席:1名	第2回図書館委員会 1.平成31年度予算について 2.平成30年度紀要第2号について 3.その他
平成31年3月8日(金) 10:00~11:00 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:10名 欠席:2名	第3回図書館委員会 1.平成30年度紀要第2号 提出原稿について 2.平成31年度図書館予算について 3.平成31年度前期選定図書について 4.その他

【評価】

本年度も紀要の作成にあたっては、図書館運営委員会と併せて紀要編集委員会を実施し、募集から試読、リバイス、編集、発行までの一連の作業を実施した。本年度は10月発行の第1号は、現代社会学部で論文4編、子ども育成学部で論文2編、また3月発行の第2号は、現代社会学部で論文7編、研究ノート2編、子ども育成学部で論文9編が掲載された。

学生の図書館利用状況については、これまでも行っていた月次集計を毎月、教授会への報告事項として提出することを行うこととした。また電子書籍の導入や経済関連の検索範囲を拡大するなど、その充実化を図っている。

本学の図書館の日々の管理状況については、担当者の努力により問題なく運営されていると判断される。

【課題】

紀要については、論文とするか否かにかかる判定手続きや論文内の著作物の使用許諾確認方法などにつき、さらなる改善を目指すことが求められる。今後、委員会等において十分な議論を重ねるも、その結果を常に教員にフィードバックし、常に注意を喚起していくことが求められよう。

3. 情報センター運営委員会

【実施計画】

情報センター規程に基づき、予算策定期間に、情報センター運営委員会を実施し、センター運営について協議する。

【実施内容】

・構成メンバー

大西センター長、大谷教授、上坂教授、奥田講師、高尾准教授、堀江准教授、酒井教務課長、水野教務課主査、宮森情報センター員

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
平成30年6月21日(木) 16:20~18:00 東黒牧キャンパス(430室) 呉羽キャンパス(会議室) 出席:7名 欠席:1名	1.平成30年度特別事業:呉羽キャンパスネットワーク機器の更新 2.呉羽キャンパスE館ネットワーク接続問題における進捗状況 3.Windows7・Windows Server2008 延長サポート終了について 4.ネットワーク・サーバシステム等入替え長期計画 5.運営委員からの報告・検討事項等

平成30年9月27日(木) 16:30～17:40 東黒牧キャンパス(430室) 呉羽キャンパス(会議室) 出席:6名 欠席:2名	<ol style="list-style-type: none"> 1. PC廃棄報告 2. 特別事業実施報告 3. ネットワーク・サーバシステム等入替え長期計画 4. WEBサーバ関連障害・問題点の報告 5. クラウドに関する報告 6. PC室コンピュータの入替え・廃棄について 7. キャンパス間ネットワーク通信問題 8. Windows10移行にかかる情報センターサポート
平成30年11月20日(火) 16:30～18:00 東黒牧キャンパス(430室) 呉羽キャンパス(会議室) 出席:6名 欠席:2名	<ol style="list-style-type: none"> 1. PC室(C1・C3)PC入替え・廃棄に関する意見・希望 2. キャンパス間ネットワーク通信問題 3. Windows10移行にかかる情報センターサポート進捗状況 4. 平成31年度運営事業について 5. インターネット基本回線契約変更について 6. 平成31年度特別事業(ファイルサーバ・内外サーバ更新) 7. インターネット基本回線増速化事業
平成31年1月29日(火) 16:30～17:30 東黒牧キャンパス(430室) 呉羽キャンパス(会議室) 出席:7名 欠席:1名	<ol style="list-style-type: none"> 1. PC室(C1・C3)PC入替え・廃棄に関する意見・希望 2. キャンパス間ネットワーク通信問題解決の報告 3. Windows10移行にかかる情報センターサポート進捗状況 4. 平成31年度運営事業について 5. インターネット基本回線契約変更について 6. 平成31年度特別事業(ファイルサーバ・内外サーバ更新) 7. インターネット基本回線増速化事業

【評価】

サーバシステム、ネットワーク環境、プリンタ等の環境変化について討議し、従来の運用内容については情報センター担当業務を着実に果たし、問題なく運用されている事が確認された。

呉羽キャンパスにおいて、情報センターから週に1日の出張サービスを継続して実施し、学生・教職員へのサポート体制が強化された。呉羽キャンパスにおけるネットワーク接続に関する問題点について業者間での検討会を設け、追跡調査結果、通信機器交換を実施し問題解決に至った。

子ども育成学部の「情報処理演習」授業担当教員が非常勤講師となったことに対する、学生へのサポート低下に対しても、呉羽事務室と連携し、予約による出張サポートを、急を要する場合は、電話やメールによるサポートを実施している。

【課題】

学内でのノートPCのみならず、スマートフォンやタブレット等モバイル機器の増加する中、Wifi環境を一層充実していく必要がある。

4. キャリア支援センター運営会議

実施計画

キャリア支援センターに関する諸問題について検討することを目的とし、原則として毎月1回開催する。

【実施内容】

- ・構成メンバー：上坂センター長(現代社会学部)、彼谷センター次長(子ども育成学部)
後藤委員(現代社会学部)、大西委員(現代社会学部)、川本委員(現代社会学部)
相山委員(子ども育成学部)、石倉委員(子ども育成学部)、岩木学生課課長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
平成30年4月24日(火) 16:30～18:00 東黒牧C・呉羽C Web会議 出席:7名 欠席:1名	<p>議事</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 審議事項 1 キャリア支援センター事務分掌(業担)について (資料1) 2 平成30年度企業・事所大学講演会について 年度企業・事所大学講演会について 3 COC +との協力体制について

	<p>4 その他 (2) 報告事項 1 平成29年度就職実績 について (資料 2) 2 平成30年度インターシップについて (資料 (資料 3) 3 平成29年度卒業生進路状況 冊子 の作成について の作成について 4 その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員について (資料 4) ・ 子ども育成 学部キャリア支援委員会について (資料 5) (3) その他</p>
<p>平成 30 年 5 月 31 日(月) 12:30～13:10 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名</p>	<p>議事 (1) 審議事項 1 平成 30 年度企業・事所大学講演会について (資料 1) ・ 講演会テーマの設定 ・ プログラム (内容) 確認 ・ 案内時期の確認 2 海外インターシップの単位認定について (資料 2-1・2、回覧資料 回覧資料) ・ プログラムの確認 ・ 単位認 定までの手続きを確・ 認定評価の可否 ・ 今後の海外インターシップについて (学部間で整合性) (2) 報告事項 1 平成 29 年度卒業生進路状況冊子について 2 平成 30 年度就職内定状況について (資料 (資料 3) 3 その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員について (資料 (資料 4) ・ 子ども育成学部キャリア支援委員会について (資料 (資料 5) (3) その他</p>
<p>平成 30 年 6 月 28 日(木) 12:20～13:10 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名</p>	<p>議事 (1) 審議事項 1 地元定着率向上対策部会 (COC+) について 2 平成 30 年度企業・事所大学講演会 について ・ 案内チラシ -資料 1 ・ 当日配布用プログラム -別途配布資料 別途配布資料 別途配布資料 別途配布資料 1 3 富山大開催の TOYAMA 採用イノベーションスクールについて -別途配布資料 別途配布資料 別途配布資料 2 (2) 報告事項 1 大学コンソーシアム 富山 合同企業訪問 について -別途配布資料 別途配布資料 3 2 平成 30 年度就職内定状況 について -資料 2 3 その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員について -資料 3-1 ・ 子ども育成学部キャリア支援委員会について- 資料 3-2 (3) その他</p>
<p>平成 30 年 7 月 24 日(火) 16:30～17:15 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：7名 欠席：1名</p>	<p>審議事項 (1) 審議事項 1 「2019年度採用のための大学案内」の作成について -別途配布・資料 1 2 平成 30 年度企業・事業所・大学講演会について-資料 2 ・ アンケートについて</p>

	<p>(2) 報告事項</p> <p>1 大学コンソーシアム富山 合同企業訪問について—資料 3</p> <p>2 平成 30 年度就職内定状況について—資料 4</p> <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会学部キャリア支援委員会について—資料 5 ・ 子ども育成学部キャリア支援委員会について <p>(3) その他</p>
<p>平成 30 年 9 月 12 日 (火)</p> <p>11:30~12:15</p> <p>東黒牧 C・呉羽 C Web 会議</p> <p>出席 : 5 名 欠席 : 3 名</p>	<p>審議事項</p> <p>(1) 審議事項</p> <p>1 平成 30 年度学内合同企業説明会の日程調整・案先 — 資料 1</p> <p>2 平成 30 年度 OB・OG との企業研究会 (仮名) 日程調整</p> <p>3 「2018 年度採用のため大学案内」作成について — 資料 2</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>1 就職内定状況 について (平成 30 年 9 月 11 日現在)について— 資料 3</p> <p>2 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会学部キャリア支援委員について ・ 子ども育成学部キャリア支援委員会について <p>(3) その他</p>
<p>平成 30 年 10 月 31 日 (水)</p> <p>18:00~18:50</p> <p>東黒牧 C・呉羽 C Web 会議</p> <p>出席 : 8 欠席 : 0 名</p>	<p>審議事項</p> <p>(1) 審議事項</p> <p>1 「平成 30 年度 企業・事所大学講演会」について —資料 1</p> <p>2 「201 8 年度採用のため大学案内」進捗状況 について</p> <p>3 「一般企業対象就職説明会 」(COC+) について— 資料 2</p> <p>4 「平成 30 年度学内合同企業説明会」の日程 について —資料 3</p> <p>5 「卒業生 とのネットワーク づくり (イベント)」について</p> <p>6 その他</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>1 就職内定状況 について (平成 30 年 10 月 31 日現在)について— 資料 4</p> <p>2 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会学部キャリア支援委員について ・ 子ども育成学部キャリア支援委員会について —資料 5 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方 改革 への対応セミナー—別途配布 別途配布 別途配布 資
<p>平成 30 年 11 月 27 日 (火)</p> <p>16:30~17:10</p> <p>東黒牧 C・呉羽 C Web 会議</p> <p>出席 : 8 名 欠席 : 0 名</p>	<p>審議事項</p> <p>(1) 審議事項</p> <p>1 「平成 30 年度 企業・事所大学講演会」について —資料 1-1~4・別途配布 別途配布 別途配布</p> <p>2 「平成 30 年度キャリア支援センター予算 (請求) 」について— 資料 2</p> <p>3 「平成 30 年度学内合同企業説明会」の 案内 について —資料 3</p> <p>4 その他</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>1 就職内定状況 について (平成 30 年 11 月 27 日現在)について— 資料 4</p> <p>2 「201 8 年度採用のため大学案内」進捗状況 について</p> <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会学部キャリア支援委員について ・ 子ども育成学部キャリア支援委員会について —資料 5 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域創生 i n TOYAMAの案内について —別途配布資料 別途配布資料

<p>平成31年1月7日(月) 15:00～15:40 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：7名 欠席：1名</p>	<p>審議事項 (1) 審議事項 1 平成30年度キャリア支援センター予算(請求)について 2 平成30年度「学内合同企業説明会」の案について 3 平成29年度COC事業「一般企業対象就職説明会」の実施について 4 平成29年度COC事業関連のアンケートについて 5 卒業生による企説明会(OBとの対話)について 6 その他 (2) 報告事項 1 「企業・事所大学講演会」の実施報告について 2 「インターシップ就業体験発表会・特別講演」について 3 就職内定状況について(平成29年12月6日現在)について(資料8) 4 その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員会について ・ 子ども育成学部キャリア支援委員会について (3) その他</p>
<p>平成31年2月8日(金) 11:00～12:10 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名</p>	<p>審議事項 (1) 審議事項 1 就職活動に向けた企業研究会(OBとの交流)について(資料1-1・2・3・4) ・ 参加企業の確認 ・ 運営について 2 平成30年度「学内合同企業説明会」について(資料2-1・2) ・ 参加企業の確認 ・ 役割分担 3 その他 (2) 報告事項 1 就職内定状況について(平成31年2月7日現在)について(資料3) 2 平成30年度一般企業対象就職説明会の実施報告について(資料4) 3 その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員会について(資料5) ・ 子ども育成学部キャリア支援委員会について(資料6) (3) その他</p>
<p>平成31年3月4日(月) 11:00～11:50 東黒牧C・呉羽C Web 会議 出席：8名 欠席：0名</p>	<p>議事 (1) 審議事項 1 2018(平成30)年度「学内合同企業説明会」について(資料1-1・2・3・4) ・ 参加企業の確認 ・ 教職員の配置 2 2019年度企業・事所大学講演会師選定について 3 その他 (2) 報告事項 1 就職活動に向けた企業研究会(OBとの交流会)の実施報告について(別途配布) 2 就活イベントについて(資料(資料2)) 3 就職内定状況について(平成31年3月4日現在)について(資料3) 4 その他 ・ 現代社会学部キャリア支援委員会について(資料4) ・ 子ども育成学部キャリア支援委員会について(資料5)</p>

【評価】

昨年度に引き続きWEBを使い会議が行なわれたが、順調に審議が行なわれた。基本月1回のペースであるが、8

月・12月は議題等を前月に集約し年間10回の会議が適当であった。また、会議時間の短縮化を図り、遅くとも1時間以内で終了した。

【課題】

キャリア支援センター運営会議を開催するに当たり、日程調整が難しい状態である。

5-1. 国際交流センター運営会議

【目標】

本学の国際交流に関する事項について、教職員による協議を行う。

【実施内容】

・構成メンバー

才田国際交流センター長、福島国際交流センター次長、高橋哲郎教員、湯教員、秦野教員、M.フランク、金子委員

事務 岩木・吉村・西村

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
平成30年4月26日(木) 16:20~18:10 東黒牧C 出席:6名 欠席:1名	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 私費留学生の授業料減免規程に基づく審査 2. 平成30年度の奨学金受給者の推薦について。 3. 11月のTOEIC IPテスト日程変更 4. イギリス・アイルランド留学先調査 5. その他 <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公益財団法人朝日国際教育財団 平成30年度特別奨学生募集について 2. 交流候補校の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・Holmesglen Institute (オーストラリア) ・新陽師範学院 3. その他
平成30年5月24日(木) 16:20~18:10 東黒牧C 出席:7名 欠席:0名	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学期間終了学生の留学ビザによる再来日問題と対策について ※資料:ブラド事情徴収 2. 新規協定校について (チェンマイ大学) 3. TOEIC IPテストの実施結果について 4. その他 <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「グローバル人材育成プログラム (副専攻)」登録者について 現代社会学部 4人 「地域創生人材育成プログラム (副専攻)」登録者について 0人 2. 新陽師範学院との調整状況 3. ネパールの日本語学校経営者来訪 4. チェンマイの統合大学との交流の紹介
平成30年6月21日(木) 16:20~18:10 東黒牧C 出席:7名 欠席:0名	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年報2017年度版修正案及び資料集 2. 海外研修誓約書改訂と全プログラム参加者への義務付け 3. 平成30年度後期受入交換留学生希望者について 4. 留学プログラム等参加希望者について 5. 海外インターンシップ (武者修行) について 6. 副専攻プログラムとしてポイント認定海外活動について 7. その他 <p>報告事項</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 1. EMBA の春季ショートプログラム参加者募集 2. 英語学習パートナー参加学生募集について 3. その他
<p>平成 30 年 7 月 26 日(木)</p> <p>16:20～18:20</p> <p>東黒牧 C・呉羽 C Web 会議</p> <p>出席：6 名 欠席：1 名</p>	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. TUINS English Camp 2018 について 2. アイベック奨学金について 3 タイプ 4 の変更点と留意点について 4. インターナショナルプログラムズ (長期：オーストラリア、中国) 5 その他 <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 異文化研修 (マルタ・韓国・中国) の実施について 2. その他
<p>平成 30 年 10 月 4 日(木)</p> <p>16:30～18:20</p> <p>東黒牧 C</p> <p>出席：6 欠席：1 名</p>	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 信陽師範学院との学術交流協定及びダブルディグリー協定について 2. 鄭州東陽日本語学校との受け入れ協定について 3. ひとつくり財団助成金申請 (平成 31 年度 (第 9 回?) 国際交流フォーラム) について 4. Jasso 奨学金申請について 5. 「オレゴン州の私立大学 (2 校) との交流促進について」(富山県総合政策局国際課より) 6. TOEIC IP 日程 7. その他 <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. イギリス調査報告と英語圏留学先 (と今後の英語圏開拓方針についての意見交換) について 2. 海外留学中の学生について 3. 秋入学外国人留学生について 4. 2018 国際交流フェスティバルについて 5. チェンマイ大学との学術交流協定進捗状況 6. その他
<p>平成 30 年 11 月 1 日(木)</p> <p>16:20～17:35</p> <p>東黒牧 C</p> <p>出席：7 名 欠席：0 名</p>	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 危機管理マニュアルと危機管理体制 2. 2019 年度予算 (危機管理、留学奨励金、手土産、宿舍整備費 2 軒分?、フォーラム、その他) 3. 留学手続き分担 現社学生は現社教員で担当することとし、国担当教員を決める。 PSU：フランク先生 レスブリッジ：伊藤雄(?) サザンクロス、ラトローブ：パブリー セントラルフィリピン、ISUGA、イギリス：重本 マルタ：才田 中国：湯 韓国：高橋哲 4. その他 <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 国際交流フェスティバル交通手段、集合時間 2. TOEIC IP 申し込み状況 3. 現社留学・海外研修プログラム説明会 4. 2019 年春交換留学希望者

	5 その他
平成 30 年 11 月 15 日(木) 16:20～17:35 東黒牧 C 出席：6 名 欠席：0 名	審議事項 1. 2019 年度予算について 2. その他
平成 30 年 12 月 20 日(木) 16:20～17:50 東黒牧 C 出席：6 名 欠席：0 名	審議事項 1. TOEIC 受験報告について 2. 協定校から依頼のあった交換留学生 3. 交換留学生の延長について（本人より打診） 4. 私学事業団取材・冊子案 5. 私学事業団補助金関係の調査を受けて 6. 英国サセックス大学について 7. その他 報告事項 1. グローバル融合キャンプ（富山国際大学、大邱大学、大邱韓医大学）について 2. シラバス英文表記のための例文集 3. その他
平成 31 年 1 月 24 日(木) 16:20～18:10 東黒牧 C 出席：7 名 欠席：名	審議事項 1. 英国サセックス大学について 2. アメリカのミズーリ州立大学について 3. 平成 31 年度 TOEIC IP 日程について 4. 平成 31 年度学研災付帯海外留学保険について 5. インターナショナルプログラムズ(長期・短期)の参加希望者について 6. アイペック奨学生申請者について 7. その他 報告事項 1. 2019 年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)申請プログラムの採否結果について 2. 2019 年度行事スケジュール 3. その他
平成 31 年 3 月 6 日(水) 16:30～17:10 東黒牧 C・呉羽 C Web 会議 出席：7 名 欠席：0 名	審議事項 1. ロシア人交換留学生アナスタシアさんの交換留学延長について 2. ウクライナへの留学希望が出ている 2 名の学生について

【評価】

留学生の 1 年生入学減少が続いており、協定校との協力を得て、2+2 編入学生の増加を図るため協定校の増加を図った。次年度に繋げるよう受講者の増加を図る工夫が必要である。

【課題】

- ・ TOEIC IP（本学学生対象の合同受験）を年2回実施し、一人でも多く受けさせ英語力を付けさせる努力をしたが、昨年度より受講者減となり、受験者数を増やす努力をする。
- ・ 英語自宅学習システム受講者を中心に受験者数の増加を図ったが、受講者及び学習時間が少ない結果となり、来年度は多く受講させるように努力する。
- ・ 海外留学についても、多く参加できるように努力をする。

【評価と今後の課題】

会議の時間短縮化を図る。

5-2. 国際化推進委員会会議

【実施計画】

富山国際大学の国際化を推進することを目的とし、富山国際大学国際化推進委員会を原則2ヶ月に一度開催する。

【実施内容】

- ・構成メンバー：中島学長、尾畑現代社会学部長、辻井子ども育成学部長、高橋(哲)学長室長、大谷学務部長、才田国際交流センター長、福島国際交流センター次長、中島事務部長、岩木課長
- ・会議内容

開催日時・場所・出欠	議題事項
平成30年5月8日(火) 16:30～18:10 東黒牧キャンパス 大会議室 出席：9名 欠席：0名	議題 1. 2017年度国際交流センター年報について 2. サマースクール実施案について 3. 国立オデッサ大学との学術交流協定調印式当日スケジュールについて 4. その他
平成30年7月10日(火) 16:30～18:15 東黒牧キャンパス 大会議室 出席：9名 欠席：0名	議題 1. 2017年度国際交流センター年報について 2. UMAP 交換交流協定について 3. タイプ4の変更点と留意点について 4. 国際交流センター7～9月の行事予定について ・シャオ客員准教授（南通大学）の着任予定：7月14日（土） ・留学生対象就職説明会 7/18（水） ・サマースクール（南通大学12名）7/31（火）～8/7（火） ・英語対応のためのSD研修会の開催 8/28（火）13:30～15:00 講師：マーク・フランク現代社会学部准教授 ・英語で授業を行うためのFD研修会開催 8/9（木）14:00～15:30 講師：マーク・フランク現代社会学部准教授 ・イギリス留学先調査（担当：伊藤雄馬講師） 8月下旬 ・ダブルディグリー協定調査（中国・信陽師範学院）9月下旬 ・English Camp（本学学生対象） 9/25～9/27 5. その他
平成30年8月28日(火) 16:00～17:20 東黒牧キャンパス 大会議室 出席：8名 欠席：1名	議題 1. 富山国際大学国際化推進プラン2018～2022（案） 2. 私立大学事業団調査来訪&質問事項への回答（案） 3. H30年度グローバル化対応 4. 年報2017進捗状況報告（第一稿校正） 5. その他
平成30年10月15日(月) 16:00～18:10 東黒牧キャンパス 大会議室 出席：8名 欠席：1名	議題 1. 一般社団法人学修評価・教育開発協議会について 2. 国際交流センター報告 1) 外国人留学生確保に向けた取組み ・新規協定校：信陽師範学院・・・10/17学生説明会開催 ・富士山日本語学校（掛尾）、富山国際学院、富山ビジネス情報 2) 海外派遣促進の取組み ・新規協定校開拓・検討中（イギリス、タイのチェンマイ大学、ベトナムのThang Long University） ・Jasso 奨学金申請（留学及び海外研修5件、受け入れ1件） ・後期留学・海外研修プログラムオリエンテーション（子ども育成10月初旬、現社10月31日） 3) 来年度開催の国際交流フォーラムについて検討中

	3. その他
平成 30 年 12 月 11 日 (火) 16:30~18:15 東黒牧キャンパス 大会議室 出席: 7 名 欠席 2 名	議題 1. 富山国際学園国際推進について 2. 2019 年度予算(案)について 国際交流センター 英語国際キャリア専攻 3. 第一回オフキャンパス報告会実施案について
平成 31 年 2 月 8 日 (金) 16:30~18:00 東黒牧キャンパス 大会議室 出席: 8 名 欠席: 1 名	議題 1. 今後の協定予定について ①英国(サセックス大学) ②アメリカ(ミズーリ州立大学) ③ベトナム(タイロン大学) ④マレーシア(サバ州公園局) 観光・文化・環境省に属する ⑤タイ(チェンマイ大学) 2. 2018 海外派遣学生数について 3. 2019 年度行事スケジュールについて 4. 2019 年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)申請プログラムの採否結果について 5. 海外大学との教員人事交流について 6. その他

【評価】

全学的に国際化を推進することを目的としており、この会議での決定に基づいて国際交流センターの運営や具体的な国際化事業が行われている。学長を議長として、両学部長他関連する役職者でメンバー構成されているため、全学的方針を速やかに決定することが出来ている。

【課題】

会議での方針が大学全体に周知されていないことがあり、現場に混乱をもたらすこともある。意思決定機関と現場との調整がうまく機能しないことがあり、調整努力が求められる。

Ⅲ. 業務運営状況（評価・課題）

1. 教務課業務（特記事項）

- ・教育課程並びに履修に関すること

【評価・課題】

平成30年度は、現代社会学部にあつては「情報教育」に力点をおくカリキュラム改定が行われ、子ども育成学部にあつては教職課程再課程認定に伴うカリキュラム改定を行い、それぞれの学部の特性を念頭にフォローを行ってきた。

副専攻プログラムについては、修了予定対象者がグローバル人材育成プログラムでは5名、地域創生人材育成プログラムでは1名であり、そのプログラムの中から初の修了者が各1名ずつ出たことは、フォローのし甲斐があった。

また、学修意欲に欠ける学生に対し、懲戒処分退学になる前に、進路考察の機会を与えるための退学勧告制度について具体的な運用ができたことは、今後の学修指導によって学生の学修意欲に繋がるものである。

- ・研究生・科目等履修生・聴講生等に関すること

【評価・課題】

研究生・科目等履修生・市民聴講生等の募集案内については、一部遅延があつたが大きな混乱はなく処理できた。受け入れ等実績は次のとおりであつた。

平成30年度在籍者数 研究生：0名 科目等履修生：3名 市民聴講生：0名

大学コンソーシアム富山単位互換制度における受講について、本学が開講した共同授業科目である「環境政策論」及び「とやま地域学」以外の科目で、他大学学生が受講したのはなかつた。

なお、本学学生が他大学の科目を受けたのは次のとおりであつた。

機関名	科目名	現代社会学部	子ども育成学部	計
富山大学	地域ライフプラン	3	0	3

今後はより積極的に本学、他大学学生、社会に向けて案内に工夫していく。

- ・教務業務に関連すること

【評価・課題】

平成30年度は次のような評価と課題であつた。

① 大学コンソーシアム富山（単位互換）について

実施計画に基づき、9月3日から6日まで開講した大学コンソーシアム富山共同授業科目「とやま地域学」に32名が受講した（本学学生は11名）。富山県に関する様々な情報を、富山県知事の講義と意見交換も交え、資料やデータなどから、日本や国際社会と比較し、富山の強み、問題点などの特色を知ること、そして21世紀の富山活性化策について考える4日間を計画どおり実施できた。しかし、本年度は他大学の集中講義科目と重なり、履修人数が昨年度より大幅に減ってしまい、次年度は日程及び履修募集の時期について検討する必要がある。

また、平成28年度から富山県環境政策課とのタイアップで、本年度は8月27日から30日まで開講した「環境政策論」には、21名（本学学生は8名）が受講した。富山県の「環境」にかかる取組を、各関係部署から講義していただき、最終日に富山市内の小水力発電所などを見学した。

また、他の単位互換科目では、富山大学が開講した「地域ライフプラン」に3名の受講実績があつた。

② 公益財団法人富山県ひとつくり財団助成金について

平成30年度は次のような実績となつた。

公益財団法人富山県ひとつくり財団高等教育振興事業一覧

<平成30(2018)年度>

助成事業種別	学部・部署	研究課題名	助成額
2号 (シンポジウムの開催に対する助成)	子ども育成学部	富山国際大学子ども育成学部 第10回公開セミナー	0
2号 (シンポジウムの開催に対する助成)	現代社会学部	富山国際大学現代社会学部-大邱大学校経商大学 学術交流国際シンポジウム	0
3号 (公開講座の開催に対する助成)	現代社会学部	富山国際大学 現代社会学部 現代社会学科 英語国際キャリア専攻 公開講座 「英語国際キャリア専攻開設記念シンポジウム～グローバルに活躍し、地域に貢献する～」	373,000
5号 ア (若手研究者が行う研究)	現代社会学部	総合型地域スポーツクラブの成長過程における中間支援組織の役割	359,000
5号 イ (地域課題の解決に取り組む研究)	子ども育成学部	『富山型保育ソーシャルワーカー研修プログラム』の開発に関する研究	500,000
7号 ア (学生確保推進支援事業)	入試広報課	平成30年度富山国際大学学生募集確保事業	1,000,000
	キャリア支援センター	就職推進事業	620,000
7号 イ (大学活性化支援事業)	地域交流センター	学校法人富山国際学園 富山国際大学エクステンション・カレッジ特別講演	500,000
計			3,352,000

③ 公益財団法人富山第一銀行奨学財団研究助成金について

平成30年度は次のような実績となった。

公益財団法人富山第一銀行奨学財団研究助成金 実績一覧

<平成30(2018)年度>

資金種別	学部	職名	氏名 (研究代表者)	研究課題名	実績額
高等教育機関の研究活動の助成	現代社会学部	准教授	佐藤 綾子	地方自治体の統合的財務報告開発に関する研究	500,000
		講師	谷脇 茂樹	富山における観光産業クラスターの可能性と成功のための条件	500,000
	子ども育成学部	講師	佐部利 典彦	想像的で創造的な学びの場の創出	500,000
		講師	金子 素子	幼児期の投能力における性差の縮小に有効な投運動プログラムの開発について	500,000
計					2,000,000

④ COC 事業に伴う業務について

平成29年度から本学独自の副専攻プログラム「地域創生人材育成プログラム」を運用しており、その業務と並行して本年度の事業を把握した。

⑤ 副専攻プログラムの運営について

平成30年度は2つの副専攻プログラム（グローバル人材育成プログラム・地域創生人材育成プログラム）で、各1名ずつ修了者を認定し、学位記授与式で修了証を手渡した。

なお、本年度の新たな申請者数は次のとおりであった。

グローバル人材育成プログラム 5名（現代社会学部5名・子ども育成学部0名）

地域創生人材育成プログラム 2名（現代社会学部2名・子ども育成学部0名）

次年度も申請数を増やすことができるよう魅力を伝えていく必要がある。

2. 図書館業務（特記事項）

【概要】

図書館利用については、推薦図書のお知らせの方法として図書館利用について教員との連携や、オリエンテーションなどでの告知、館内のディスプレイや掲示を工夫し、昨年に引き続き図書館の利用促進を図った。貸し出し冊数の増加させたことにより、東黒牧図書館における図書貸し出し数は29年度の1,267冊/年から1,377冊/年に増進し、貸出者総数は29年度の617名に対して743名と増加したものの、入館者数は29年度の12,243名から10,787名と減少した。

・紀要に関すること

【評価・課題】

今年度も委員会委員で提出原稿のチェックを行った。チェックプロセスも取り執筆者、委員ともに作業はスムーズに実施でき、委員のチェック内容も単なるケアレスミスや体裁の点検のみならず、論文としての質や表現方法へのコメントにまでに及び、紀要全体としては質が向上した。また、紀要の発行回数も年に2回とする要望を受け、10月と3月に発行を実施した。

ただ、平成30年度も年2回発行をしたが、どうしても研究論文の投稿がギリギリとなってしまう事務処理的には課題が残った。

また著作権や論文作成に関する認識が教員によって違い、提出された論文が著作権の侵害につながるため、今回掲載を見送った論文があった。

今後「富山国際大学紀要 執筆・投稿要領」および「富山国際大学紀要 編集要領」のより詳細な修正、また現在の試読体制についての検討が必要である。

3. 情報センター業務 (特記事項)

・ネットワーク・サーバシステム及び機器に関すること

【評価】

無線アクセスポイントは正常に運用されている。またファイルサーバシステムは問題なく運用されている。

【課題】

第2コンピュータ室はノートPC対応型に更新したが、第2コンピュータ室教卓用PC(1台)、第1および第3コンピュータ室には旧カリキュラム対応の為に残されているコンピュータがそれぞれ8台・25台あり、その老朽化にどのように対応するか検討する必要がある。

ネットワーク機器・UPS等の予期せぬ機器障害・故障によってネットワークサービスが劣化・停止する等の事態が起きていることから、不測の事態に備える必要がある。

情報センターが担当するハードウェアおよびソフトウェアの入替えや更新作業は、定期的に発生し、高額な支出を伴うことから、長期的な計画が必要となる。

4. 学生課業務

(1) 奨学金に関すること

富山国際大学奨学金、独立行政法人日本学生支援機構奨学金、富山第一銀行奨学財団奨学金、各県市町村関係の奨学金等の取り扱いをし、各奨学金の申請、継続、返還、異動の手続きや学習成績の報告を行う。

【実施計画】

経済的に困難な状況にある学生の修学継続を支援するため、本学独自の各種奨学金制度がある。日本学生支援機構奨学金、地方公共団体・財団等の奨学金についても、学生および保護者からの相談に応じ、適切な助言、受給に向けた対応にあたっている。本学独自の奨学金としては、経済的理由により学費等の納付が困難である者、成績優秀者、諸活動で成果を収めた者、海外留学者(半期)、外国人留学生を対象にした制度がある。奨励金として、学業成績または諸活動において前年度に著しく優秀な成果を収め、他の在学生の模範であると認められた2年次以上の学生に給付する制度である。

【実施内容】 富山国際大学奨学金

奨学種類		免除額	H30 予定人数	H30 実績人数
(第1種) 在校生	経済的理由	980,000	1	0
		490,000	3	0
		465,500	0	1
		325,000	0	2
		310,000	0	0
		275,000	0	2
		183,000	0	2
小計			4	7
(第2種)	特別奨学生	930,000	6	0

受験生	選抜試験	880,000	0	2	
		575,000	0	0	
		565,000	6	7	
		540,000	0	1	
小計			12	10	
(第2種) 在校生	特別選抜試験特待生	550,000	7	10	
		275,000	31	27	
小計			38	37	
(第2種) 受験生	諸活動特待生	880,000	1	1	
		540,000	5	5	
		365,000	1	1	
		340,000	3	3	
		300,000	0	0	
		200,000	15	15	
小計			25	25	
(第2種) 在校生	諸活動特待生	550,000	2	5	
		275,000	24	23	
	小計			26	28
(奨励金)	成績優秀者	100,000	12	13	
	諸活動優秀者	100,000	2	1	
	小計			14	14
	合計			119	121

日本学生支援機構等奨学金等

奨学財団名等		人数	備考
日本学生支援機構		306	第1種 148人 第2種 155人 給付3人
富山第一銀行		0	
富山県		0	
石川県		1	
各市町村		1	(富山市 2人、朝日町1人)
交通遺児育英会		0	
あしなが育英会		0	
留学生	富山県	5	
	日本学生支援機構	1	
	朝日国際	5	

【評価と今後の課題】

昨年に引き続き、経済的に授業料が支払えない理由で相談が増加している状況であり、大学の奨学金については、一人でも多くと考え、予算内で定められている一人あたりの奨学金の額を減額して、対処している状況である。オリエンテーションで、学生に対して他の機関の奨学制度を情報提供して、大学生活ができるよう努力をしている。保護者との話し合いが少ないように感じられるので、保護者にも情報提供し、学生本人と相談しやすい環境を作っていく。

(2) イベント関係に関すること

大学祭、スポーツ文化交流会、富山県私学祭、卒業記念パーティー等を運営する学生の補助をする。

◆大学祭

【実施計画】

現代社会学部 平成30年10月27日(土)～28日(日) 東黒牧キャンパス

子ども育成学部 平成30年10月20日(土)～21日(日)呉羽キャンパス

※ポスターは両学部で共通のポスターを作る

【評価と今後の課題】

現代社会学部については、当日悪天候によりステージの損傷があり、学生が必死に回復作業をして開会式に間に合った。学内でのPRも順調に進み、運動部関係の大会が終了しており、運動系の学生参加者が増えた。しかし、地域住民との協力体制が弱く、次年度の課題であり、早めに話し合う場を設けて協力体制の強化を図る。子ども育成学部につきましては、富山短期大学と開催日が同時であり、中心的なステージを共同で使用また委員との話し合いにより詳細な事を決定している状況であり、大学として自由に出来ない部分もあるが、子ども育成学部の特徴が出た大学祭であった。

◆スポーツ文化交流会

【実施計画】

1. 目的 スポーツ及び文化系競技等を通して、富山国際大学両キャンパスの学生（留学生を含む）及び教職員相互の親睦を図る。
2. 期 日 平成30年6月5日（月）
3. 会 場 富山国際大学東黒牧キャンパス
4. 参加者（約500名参加）

現代社会学部 1・2年（全員参加：教養演習出席振替）3～4年（自主参加）

子ども育成学部 1・2年（全員参加） 3～4年（自主参加）

職藝学院 全学生（自主参加）参加者要事前申請 スポーツ系のみエントリー可

スポーツ系の各競技にチーム数の制限を設ける

参加者 現代社会学部 1・2年（全員参加：教養演習出席振替）

3・4年（自主参加）

教員

子ども育成学部 1・2年（全員参加）

教員

職藝学院 全学生（自主参加）参加者事前申請必要スポーツ系のみエントリー可

スポーツ系の各競技にチーム数の制限を設ける

【評価と今後の課題】

学生中心に計画を立て実施し、両学部の交流親睦を図るのが目的だが、もう一つ仕掛けが必要である（協同作業）。両学部の打合せの時間が短すぎる事により学生同士の親睦時間が少なく、十分に図られていないのが現状である。準備中及び開催当日に学生同士が話し合える工夫が必要であると考えられる。準備段階より、学生だけで創意工夫をさせ、教職員が見届けるような体制にして、学生が自立して実施することにより、親睦が図られる。また、委員選出を早める工夫が求められる。開催中に教員及び両学部学生の交流の進展が望まれる。

◆私学祭について

富山県私学祭

【実施計画】

私学の美術展

日時 平成30年12月1日（土）～3日（月）10時～17時（最終日は14時まで）

場所 富山県民会館 地階展示室

内容 私立幼稚園の園児、私立中学高校の生徒、私立大学・短期大学・専修・各種学校の学生による絵画、書等の芸術作品展示

【評価と今後の課題】

大学は文系であり、サークル及び個人的に活動している学生の作品であり、専門的な指導の下で作品を作成していない中、作品を提出している状況である。

卒業記念パーティー

【実施計画】

平成30年度 第26回 富山国際大学卒業記念パーティー計画概要について

日時 平成31年3月20日(水) 受付 15:30~16:00
 宴会 16:00~18:00
 会場 ホテルグランテラス富山
 主催 富山国際大学後援会 後援 富山国際大学同窓会
 参加者合計 約 名
 司会・進行 現代社会学部学友会・子ども育成学部学友会
 会費 卒業生・教職員 一人 3,000円

【実施内容】

卒業記念パーティー出席者数

	合計(人)	現代社会学部(人)	子ども育成学部(人)
学生	175	87	88
理事長・学長	1		
教員	32	14	18
非常勤講師・クラブ指導者	2	1	1
後援会・同窓会	5	4	1
職員	4	3	1
合計	219	109	109

【評価と今後の課題】

学生の出席率が高くなり、年々出席率が良くなり盛大に実施することができた。裏方学生の段取りも良くなり引継がなされている。計画・司会・進行した学生と学生課教職員でパーティー終了後、反省を実施し例年になくお互いの意見が多数出て活発な反省会となった。

(3) クラブ関係に関すること

クラブ・サークルの運営管理、クラブ・サークルの後援会予算管理等を行う。クラブ会総会開催の補助をす

【実施計画】

平成30年度 クラブ会総会

日時 平成31年3月1日(金) 11:00 場所 呉羽キャンパス E館406教室

1. 平成31年度 クラブ会 会長等の選出について
2. クラブ活動について
 - ・部・サークル活動について
 - ・学生団体継続願い等について
 - ・施設(大学会館・体育館等)の利用について
 - ・各種届出について(遠征届・バス利用申請等)
3. 新入部員の勧誘について
4. 平成31年度 スポーツ文化交流会について
5. スポーツ安全保険について
6. その他

【実施内容】

平成30年クラブ一覧

育 体	東黒牧キャンパス 硬式野球部	呉羽キャンパス 女子軟式野球部(短大と合同)
-----	-------------------	---------------------------

	サッカー部 女子ハンドボール部 男子バスケットボール部 ボート部 バドミントンサークル バスケットサークル ダンスサークル	SPORTY サークル ダンスサークル バスケットボールサークル バドミントンサークル バレーボールサークル フットサルサークル
文化系部&サークル	軽音楽部 吹奏楽部 ボランティア部 環境サークル 芸術サークル 国際交流サークル 経済リサーチサークル お茶サークル English Media Club	吹奏楽部 アカペラサークル イラストサークル SSW・BBS 研究会 演劇サークル 書道サークル TUINS English Club TIES (富山国際大学小学校教育研究会) 保育サークル～にこここ～ 東日本大震災復興支援サークル「へそ」 学生団体 MUL I・C・S 茶道サークル 軽音楽サークル 歩いて発見!となみ野サマーチャレンジ

【評価と今後の課題】

【評価と今後の課題】

-ボート部(男女)・女子ハンドボール・陸上部(砲丸投げ)は全国大会や地方大会で優秀な成績を収め本学の名声を高めました。今後他のクラブ活動において刺激しあい、相乗効果により各クラブ活動において成績向上に繋がっていかないと感じている。また、クラブの学生確保が難しく、掛け持ちをして積極的に活動している学生もいるが、部・サークルに一人でも多く所属して、活気ある学生生活を送る様に、学友会・クラブ会が中心になって努力していく。強化クラブについては見直しの時期に来ている。

(4) 大学コンソーシアム富山に関する事

【実施計画】

実施日時 平成30年6月30日(土)～7月1日(日)

実施場所 国立立山青少年自然の家

参加対象大学コンソーシアム富山 構成機関の学生会等所属学生◇参加状況参加者学生42名教員16名

富山国際大学 教職員3人 学生 9人

県内高等教育機関において、学生会やサークル等のリーダーとして活動する大学生等を対象に、リーダーシップ力・コミュニケーション力・企画力を高めるための研修を行い、リーダーとしての資質向上を図る。

また、各所属機関の枠を越えた研修により、参加学生間の交流・連携を深め、ひいては相互の主体的な活動による大学間等の連携の推進を目指す。

【評価と今後の課題】

他大学学生と交流が図れ、学生同士の刺激を受け、今後とも実施して欲しい事。また、大学に帰って個々にリーダーとして役割を果たすことに期待する。

(5) 夢への架け橋助成事業に関する事

夢への架け橋助成事業の募集告知、申請事業のヒアリング、学内審査会、助成金の交付、事業終了後の報告書管理を行う。

【実施計画】

募集期間 : 平成30年4月2日(月)～5月9日(水)【必着】

1 目的

この助成事業は、本学の学生の活力を生かすとともに、地域との連携を更に深め地域に貢献することにより、本学の活性化に資することを目的に、本学の学生から研究・活動等の事業計画を募集し、その事業の実施に対し本学が助成・支援を行う。

2 助成対象事業

本学に在学する個人又はグループで積極的に研究・活動等を行うものとし、以下に掲げる事業とします。

- (1) 地域問題、国際問題に関する調査・研究事業
- (2) ベンチャー企業の創設に関する調査・研究事業
- (3) NPO活動事業
- (4) イベント計画・実施事業
- (5) ボランティア活動の計画・実施事業
- (6) 地域活性化の調査・研究又は事業の実施
- (7) 国際的文化交流に関する活動
- (8) 各種創作活動
- (9) その他本学の活性化に繋がると認められたもの

【実施内容】

平成30年度 夢への架け橋助成事業申請

NO	事業
1	花で大学を華やかに II
2	留学生と取り組む地域の観光活性化
3	国際貢献活動：ムラブリ寄り添いタイ for future children
4	地方都市における地域創生に関する調査・研究～夕張市における地域活性化事業とエネルギー利用の観点から～
5	中心市街地の活性化成功事例に関する調査・分析～長浜市における第3セクター事業の視点から～
6	辞退 仮) イギリスでの研究発表
7	発酵体ユニットを利用した炭素循環農法の実証
8	TUINS サッカー教室
9	TUINS 売店設置・誘致プロジェクト
10	科学実験教室・自然体験ボランティア活動
11	ちょっこ おいでま こども食堂キャンパス
12	小学校体育授業・中学校部活動 指導サポート事業
13	限界集落支援事業
14	小中連携特別活動支援事業
15	World Friends in Toyama
16	MUL ごと体験教室

【評価と今後の課題】

今年度は16件募集件数で実施事業は15件(昨年度8件)があった。多数応募があり、今後内容を精査し絞り込む必要がある。また、報告書の取りまとめについて締切日を守らないので、早急に提出するように管理する。

(6) 広報関係に関すること

年2回のコスモス通りの発行業務(内容案作成、原稿依頼、原稿収集、校正)を行う。

【実施計画】

78号 入学式(平成30年4月4日(水))に新入生の保護者に配布
2・3・4年生の保護者へは、後援会総会案内状に同封する

79号 平成30年9月中旬 保護者へは前期成績表の発送時に同封する

【評価と今後の課題】

年2回発行し、記事内容については年間を通してより内容を検討して実施した。今年度の記事内容を踏まえて、検討していく。マンネリ化をしない様にしていく。

(7) 学生定期健康診断に関すること

【実施目標】

学校保健安全法に基づき、学生の健康保持増進を図るため、毎年全学生を対象に定期健康診断を行う。各自の健康状態を把握し、疾患等の早期発見と適切な治療や指導を行う。

【実施内容】

毎年学部のアオリエンテーション日程に合わせて東黒牧Cは3日間としていたが、諸事情により今年度は2日間で実施した。(呉羽Cは2日間)

健診項目は身体計測(身長・体重・視力)、血圧、尿検査、胸部Xp撮影、内科診察。

※心電図検査：1年生全員と前年度心電図検査で有所見とされた在学生在が対象。

※抗体検査(血液検査)：子ども育成学部1年生が対象。

【評価と今後の課題】

健康診断受診率は99.4%、有所見者は延べ197名。

有所見者に対しては校医診察、健康相談、保健指導を行い、必要に応じて医療機関受診とした。中国人留学生新生13人(交換留学生含む)については、入国後直ちに胸部直接撮影を実施した。結果は全員異常なしであった。後期入学の中国人留学生8人も入国後直ちに胸部直接撮影を実施した。

(8) 教職員定期健康診断に関すること

【実施目標】

教職員の健康の保持と増進、疾病の早期発見、予防などを目的として、毎年定期的に健康診断を行う。

【実施内容】

毎年9月学生の夏季休業中に本学内に於いて実施している。また当日受診できない教職員については健診機関にて受診できるよう数日予備日を設けている。

健診項目は身体計測(身長・体重・視力・聴力)、血圧、尿検査、胸部Xp撮影、内科診察、血液検査、胃透視、大腸検査、婦人科検診、PSA検査を実施した。

【評価と今後の課題】

呉羽Cは9/13(木)、東黒牧Cは9/21(金)に実施した。健康診断受診率は呉羽Cは100%、東黒牧Cは他機関受診者を含めると97.9%であり、有所見者は約50名。有所見率は毎年かなり高い。

有所見者に対しては校医診察、健康相談、保健指導を行い、必要に応じて医療機関受診とした。また未受診者はいつも同一人物であることから、健康管理センター担当者からは本人への受診を勧めている、さらに職場の上司になる方から勧めてもらったが受診はされなかった。学内での受診が難しい場合は、医療機関でのドック等の結果提出をお願いしている。

(9) 救命講習会に関すること

【実施目標】

AED設置に伴いその操作を含む救命講習会を、消防署の救命士を講師として行う。

【実施内容】

- ・呉羽C：子ども育成学部はH31年1月24日(木)に実施。
- ・東黒牧C：H30年、後期アオリエンテーション時(1年次生対象)に実施。

【評価と今後の課題】

- ・東黒牧C：今年度より、後期のアオリエンテーション時に実施することになり来年度から毎年同日に実施することとなった。
- ・呉羽C：日時については担当教員と協力のもと実施、今年度より90分コースとなる。

(10) 相談業務について

【実施目標】

- ・身体面健康の保持と増進のため、学校医が相談に応じる。
- ・精神的健康の保持と増進のため、カウンセラーが相談に応じる。

【実施内容】

〈学校医〉 月1回来校

〈カウンセラー〉東黒牧C：毎週金曜日 11:00 から 16:00 まで
呉羽C：第1・3木曜日 12:00 から 16:00 まで
第2・4木曜日 13:00 から 17:00 まで

【評価と今後の課題】

H30年度の健康管理センター利用者は延べ1,122名、うち呉羽Cは366名であった。

(2月末現在)主に健診後の有所見者の再検査や健康相談・保健指導である。

カウンセリングを受けた学生は延べ166名であり、うち呉羽Cは74名であった。内訳は学生生活、家庭、進路、就職、対人関係など多岐にわたっている。今年度も「発達障害」と診断されたり、またその疑いありといった学生の入学があり、教職員間の情報共有や合理的配慮が必要と考えられる。また同じ「発達障害」と言われていても学生の困りごとは個々人違いがあり対応に苦慮することが多くある。発達障害及びそれを疑われる学生については、健康管理センターや一部の教職員だけでなく、教職員全体がその理解と協力が必要であると思われる。

学校医やカウンセラーが非常勤であるため、常駐している看護師が来室する学生の相談にのることがある。学生の状況に応じて学校医やカウンセラーに繋いでいくようにしている。

(11) 健康診断証明書の発行に関すること

【実施目標】

就職・実習・奨学金申請等に必要な健康診断証明書を、定期健康診断の結果に基づいて発行する。

【実施内容】

子ども育成学部4年生の就職用健康診断証明書は、呉羽C健康管理センター(短大保健室)から発行している。現代社会学部全学生と、子ども育成学部1~3年生及び実習等に必要な健康診断証明書は、東黒牧C健康管理センターより発行している。

【評価と今後の課題】

平成30年度の健康診断証明書の発行件数は457件であり、ほか子ども育成学部4年生就職用は23件であった。

(12) ストレスチェックに関すること

【実施目標】

2015年12月からストレスチェック制度が義務づけとなる。(労働安全衛生法)この検査により、労働者が自分のストレス状態を知ること、メンタルヘルス不調を未然に防止する。また職場の環境改善につなげる。

【実施内容】

今年度は6月に、両キャンパス同一健診機関(北陸予防協会)のストレスチェック検査を実施した。受診率は83.6%(昨年78.8%)であった。「仕事のストレス判定図」は全国平均を100とし、富山国際大学の健康リスクは102(昨年115)であった。高ストレス者は11名(昨年8名)であった。

【評価と今後の課題】

今年度3回目であり、受診率は昨年に比べて下がった。集団分析を教員と事務員の2集団としたが、このまま2集団で推移をみることとなった。高ストレス者の産業医面接の勧奨、環境改善をどうするか等継続した課題である。各キャンパス衛生委員会で検討していく必要があると思われる。

(13) その他

上記の大項目に含まれないが、学生課にて対応する業務。

◆平成30年度学生生活アンケート

【実施内容】

「平成30年度学生生活アンケート」の結果

後学期のオリエンテーション(9月末)以降に実施した「平成30年度学生生活アンケート」の目次の項目について

アンケート実施を行った。この結果を踏まえて、今後とも、学生の皆さんがより楽しく充実した大学生活を送れるよう、学習環境の改善に努めていきたいと考えている。

【評価と今後の課題】

データ分析をして、今後このデータを利用して学生生活の向上を図るため、毎年実施している。このデータを基

に、改善していく。

◆学長賞等表彰について

【実施計画】

この一年間、本学の学生として著しく表彰に値する業績のあった者あるいは、文化、スポーツ、諸活動を通じ、特に優れた業績を修めた団体又は個人に対し、富山国際大学学則第38条及び同学生表彰要項に基づき表彰したいので、別紙様式により候補者の推薦をされるよう、関係者にお願ひし実施する。

【実施内容】

下記の学生表彰候補者が提出され、平成30年2月の学務委員会で審議し、2月の両教授会及び運営会議で審議し承認された。

学生表彰候補者一覧表

No	表彰規程	推薦賞名	個人・団体	所属
1	第2条2(1)ア	学長賞	団体	ボート部(男子)
2	第2条2(1)ア	学長賞	団体	ボート部(女子)
3	第2条2(1)ア	学長賞	団体	女子ハンドボール部
4	第2条2(1)ア	学長賞	個人	陸上部(砲丸投げ)
5	第2条3(1)ア	学長功労賞	個人	学友会
6	第2条3(1)ア	学長功労賞	個人	学友会
7	第2条3(1)ア	学長功労賞	個人	クラブ会

※富山国際大学学生表彰規程細則に基づいて、行った。

【評価と今後の課題】

表彰は、3月の学位記授与式の中で表彰されるが、7個人団体の推薦が提出され表彰することとなった。学位記授与式に表彰されるが、件数が多く学長功労賞は式の終了後各学部での会場で表彰をした。

5. キャリア支援センター

(1) 庶務業務に関すること

各種調査、卒業生進路状況作成、高校訪問資料作成(3回)、「採用のための大学案内」パンフレット作成、富山県財団法人ひとづくり財団助成、インターンシップ報告書作成、内定礼状作成・発送、年賀状作成・発送、卒業生アンケート調査、運営会議・教授会資料作成業務。

【実施計画】

- ①各種調査
- ②卒業生進路状況作成(800部作成予定)
- ③高校訪問資料作成(3回)
- ④「採用のための大学案内」パンフレット作成(3,000部作成予定)
- ⑤富山県財団法人ひとづくり財団助成、
- ⑥インターンシップ報告書作成
- ⑦内定礼状作成
- ⑧年賀状作成
- ⑨運営会議・教授会資料作成業務、

【実施内容】

- ①各種調査
 - ・卒業予定者の就職決定状況【富山県労働雇用課】毎月、月末の内定状況をメールにて10日前後に報告
 - ・新規大学等卒業生の求職・就職内定状況【富山公共職業安定所】
 - ・学校基本調査(5/1付調査)【文部科学省】卒業後の状況調査票(学部毎)2-1(状況別卒業生数、入学年度別卒業生数、男女別)2-2(職業別、産業別、男女別)
 - ・学校法人基礎調査(5/1付調査)【日本私立学校振興】(進路別卒業生数、産業別就職者数、男女別)
 - ・その他民間企業調査
- ②卒業生進路状況作成

進路決定届の提出データを基に、4月30日付け進路状況を作成し、データを編集（学部別進路状況、職種別就職状況、業種別就職状況、所在地別就職状況、就職先一覧）して作成。

・配布先

企業(企業・事業所・大学講演会)・入試広報課(高校訪問、高校教員説明会等)

総務課(後援会理事会・総会、学園理事会等)

③高校訪問資料作成(3回)

入試広報課より卒業生就職先データ作成依頼有り、過去2,3年間のデータを出身校別に作成。

④「採用のための大学案内」パンフレット作成

「企業・事業所・大学講演会」(11月開催)の企業(人事担当者)に渡すため、それまでにパンフレットを納期させる。内容については、次年度の学生PR用として作成。

・キャリア支援センター長・次長・センター員で内容確認。

・業者選択をして見積・スケジュール計画依頼

・業者決定後、内容の打ち合わせをして骨格作成。

・キャリア支援センター運営会議で内容審議

・原稿依頼、データ作成・写真選択

・配布先

企業(企業・事業所・大学講演会及び求人票に同封)

入試広報課(高校訪問、高校教員説明会)

総務課(後援会理事会・総会、役員会)

⑤富山県財団法人ひとづくり財団助成、

・次年度の要望調書(就職推進事業)作成・提出 ①県の様式に従って書類を作成 ※交付条件有

・交付申請書作成・提出

県の様式に従って書類を作成

学長までの伺書を作成し、承認後提出

※補助対象経費の支出は、交付決定のあった日以降からの支出になるので注意

・事業実績報告書作成・提出 ①申請事業が完了次第作成 ②県の様式に従って書類を作成(請求書添付)

・学長までの伺書を作成し、承認後提出

・「企業との事務書類手続き」

依頼文の作成

エントリーシートの送付

「インターンシップの覚書」「同意書」「実習報告書」「実習内容報告書」の送付

賠償責任促進手続き ⑤事前挨拶書類の作成(評価表含む)

⑥インターンシップ報告書作成、

キャリア支援センター運営会議で役割分担を決定後インターンシップ参加学生、受入企業よりデータを集めて、実施報告書を作成(・担当教員に業務依頼・挨拶文・インターンシップの概要・今年度を振り返って)

・上記以外のデータは事務方で作成

学生の文章は誤字脱字が多く確認が必要。

担当ゼミ教員には確認してもらっているが、事務方での修正が必要。

・データ作成・修正及び結合作成

(はじめの挨拶、インターンシップ概要、目次、研修経緯一覧、受入先一覧、研修レポート、学生の成果、受入先アンケート結果、今年度の総括及び来年度に向けて、日報要約、インターンシップ実施要領)

・配布先

教職員

学生(学内発表会(3年)、インターンシップ受講の仕方)

企業(受入先企業)

総務課(後援会理事会・総会等)

⑦内定礼状作成

平成30年10月1日以降、内定した企業(確実に内定した企業へ行くことを確認した企業)に対して、随時令状を送付。

⑧年賀状作成、

平成30年度にインターンシップ協力企業・キャリア教育協力企業・「企業・事業所・大学講演会」の講師・参加企業、「学内合同企業説明会」参加企業に年賀状送付

⑨運営会議・教授会資料作成業務。

審議事項、報告事項に提出する資料をセンター長、課長に確認し2日前にデータを総務・教務課に提出する。

※内定状況資料は、最新の内定率に変更して提出

【評価と今後の課題】

期日厳守の作業が多く、作業工程及び役割分担の見直しが必要となっている。特に各種調査については、民間企業における調査が多く、内容は似ているが調査に時間が取られて、大学の業務に障害が起きないように、提出企業の見直しを図る。

(2) キャリア教育に関すること

【実施計画】

・現代社会学部におけるキャリア・デザイン講座(1年次必修)、キャリア教育(2年次)、インターンシップ(全学年選択)、キャリア支援講座(3年次必修)、就職試験対策講座の授業運営に関わる業務。

・尚、子ども育成学部では、キャリア入門講座(1年次)、キャリア支援講座Ⅰ(2年次)、キャリア支援講座Ⅱ(3年次)キャリア支援講座Ⅲ(4年次)、実習、インターンシップ等を独自に実施している。

・キャリア支援センター運営会議にて、1月から3月にかけて協議し決定する。

◆平成30年度 キャリア支援講座 アンケート集計

【評価と今後の課題】

・キャリア支援講座・子ども育成学部キャリア支援については、学生のアンケートを参考に毎年内容を変えている。

・キャリア・デザイン講座は、担当教員が毎年工夫(2年前から少人数・2クラスに分けて実施)をして内容変更しながら組み立てている。

(3) データ管理に関すること

【実施計画】

①卒業生就職先、在学生進路状況、企業データの管理。

尚、子ども育成学部でも独自のデータ管理を行っている。

②卒業生就職先

企業に求人票を発送する際に、その企業に卒業生が在籍しているか居ないか確認するために、在籍者調査を実施(1月実施)

③在学生進路状況

7月にキャリア支援講座の授業時に配布し実施

④企業データの管理

求人票発送及び企業データ修正、求人票に日付印を捺印(通年)

【実施内容】

①卒業生データ管理

・個々の就職データ管理

企業に求人票を発送する際に、その企業に卒業生が在籍しているか居ないか確認するために、在籍者調査を実施(1月実施)

・企業より回答を得たデータを元に卒業生データの修正・加筆

②卒業生アンケートデータも卒業生データに修正・加筆する(12月実施)

・企業訪問で得た情報も反映させる

③在学生データ管理

・進路登録カード

i. 7月にキャリア支援講座の授業時に配布

ii. 夏休み期間中に自己分析と企業研究をさせる

iii. 夏季休暇以前回収する

※留学生で進学、帰国する学生は後期授業開始前までに回収

※個別面談をして、学生の特徴を把握し、要注意学生をリストアップしている。

現在は模擬面接の様子から学生の特徴を把握する。

※このカードを参考に、学生の情報と希望企業を照らし合わせて、求人票を紹介する。

iv. 個人情報記載（相談内容、気付いた点、証明書発行企業名、3年次までの単位修得数、内定・辞退先企業）

※カードの裏面は、個人情報となっているので取扱注意

v. 進路登録カードと学生の履歴書、模擬面、接評価表、グループディスカッション、SPI 答案用紙も個々に綴る。

・内定後の手続き

i. 進路内定（決定・辞退）届

ii. 進路が決定後用紙に記載

iii. 内定通知書のコピーを撮り一緒に綴る

iv. 産業分類、職業分類は本人に確認する

v. 今後就活を続行するかの有無をきちんと把握する

vi. この用紙を基に内定状況データに入力する

・就職状況報告書

i. 進路が決定後用紙に記載

ii. 後輩学生のため、日程・適正検査・筆記試験内容・作文、小論文テーマ、面接内容を詳しく記入してもらう

iii. 年度毎にファイルを作成し、次年度学生の参考資料として閲覧する

iv. 証明書発行時には、このファイルの先輩情報を提供する

・進路状況調査依頼

i. 4年ゼミ担当教員に対して調査を年2回実施

ii. 就職先内定データを基にゼミ教員ごとに作成

iii. 依頼文作成

iv. 依頼文と進路状況調査票を配布

v. 調査票回収後に就職先内定状況データに反映させる

平成31年4月22日現在

平成30年度 富山国際大学 就職内定状況										
単位:人										
性別	学生数	内休 学者 数	就職希望者	内定者	内定率	未内定者	進学・留学 希望者	内進学・留学 決定者	進学も就職も しない	卒業 延期 者
男	83	1	74	74	100.0%	0	4	4	4	0
女	38	1	28	28	100.0%	0	4	4	5	0
計	121	2	102	102	100.0%	0	8	8	9	0
男	24	1	22	22	100.0%	0	1	1	0	0
女	72	0	70	70	100.0%	0	2	2	0	0
計	96	1	92	92	100.0%	0	3	3	0	0
男	107	2	96	96	100.0%	0	5	5	4	0
女	110	1	98	98	100.0%	0	6	6	5	0
合計	217	3	194	194	100.0%	0	11	11	9	0

④企業データ管理

・求人票受付

i. 求人票発送及び企業データ修正

ii. 求人票発送先データの作成(学部ごとに作成)

iii. 会社名、所在地、統合、倒産等の確認をホームページ等で確認する)

iv. 依頼文の作成(学部ごとに作成)

v. 求人票用紙の手配(学部ごとに作成)

vi. 起案書の作成

vii. タックシール、封筒の準備

viii. 求人票発送（採用のための大学案内、在職者調査も同封）

ix. 郵便が届かなかった企業のデータ修正を行う

x. 卒業生データの企業名も修正をかける

- ・求人票に日付印を捺印
※企業人事担当者が、大学に来て求人票を提出された場合は、企業の求めている学生像を聞き出す。
- ・県内求人・県外求人・共通県内求人・共通県外求人 に分けてナンバーリングする
- ・求人票データの入力(ホームページより求人票データが確認でき、地域、業種、職種検索等も可能)
- ・求人票一覧の作成
- ・求人一覧表を学部別にホームページにアップする
- ・掲示板に求人票の掲示
- ・企業ファイルに求人票を綴る(新規の場合はファイルを作成)
- ・会社説明会及び学外ガイダンスのポスター、チラシ等も随時掲示する
※ 求人件数及び求人人数(2月28日現在の求人件数)
県内求人件数-535件・県内求人人数- 2,731人
県外求人件数-479件・県外求人人数- 24,074人

【評価と今後の課題】

求人票のデータ管理システムは複雑であり、業務的にロスが多いので、単純化を図る。
また、大学ホームページより、求人票を閲覧できるが、見ている学生が少ない。大学に送付(来校)される求人は大切にして、学生にPRし、情報の早急化を図る。

(4) キャリア支援センター行事に関すること

【実施計画】

- ①「企業・事業所・大学講演会」の講師関連、発送先リスト作成、案内発送、会場準備、報告書作成等運営に関する業務。

「企業・事業所・大学講演会」

「平成30年度富山国際大学 企業・事業所・大学講演会」次第
開会の辞

日 時 : 平成30年11月30日(金) 16:00 ~ 19:00

場 所 : ホテルグランテラス富山 4階 瑞雲の間

(住所: 富山市桜橋通り2-28 TEL: 076-431-2211)

受 付 : 15:20から (4階 瑞雲の間)

1. 【大学説明】 (4階 瑞雲の間) (16:00 ~ 16:20)

開会の辞

開会挨拶 学 長 中島 恭一

大学及び就職支援紹介 キャリア支援センター長 上坂 博亨

【休 憩】

2. 【講 演】 (4階 瑞雲の間) (16:30 ~ 17:45)

演 題 : 「伝統産業における働き方改革」

講 師 : 株式会社能作 代表取締役社長 能作 克治氏

【休 憩】

3. 【情報交換会】 (3階 薫風の間) (18:00 ~ 19:00)

開会挨拶兼乾杯 現代社会学部長 尾畑 納子

ご歓談・名刺交換

閉会挨拶 子ども育成学部長 辻井 満雄

閉会挨拶 子ども育成学部長 辻井 満雄

以上

	平成30年度	平成29年度	平成28年度
参加企業数	116	80	86
講演会参加人数	145	90	82

情報交換会参加人数	132	73	75
-----------	-----	----	----

【評価と今後の課題】

懇親会については、年々参加者が増えてきており今後は、アンケートを分析して、次回の改善に繋げる。

【実施計画】

- ②「学内合同企業説明会」の発送先リスト作成、案内発送、会場準備、参加学生への教育・指導、アンケート集計等運営に関する業務。

「学内合同企業説明会」

1. 目的：学生が「業界」や「業種」について研究し、企業の採用計画・採用試験日程などを採用担当から直接情報収集することで、以降の就職活動を円滑に行えるようにすることを目的とする。
2. 日時：平成31年3月7日（木）・8日（金）[2日間] 13:20～16:00（企業受付開始 12:30～）
3. 会場：富山国際大学 東黒牧キャンパス 厚生棟
4. 方式：ブース形式による説明（1回あたり20分間の説明を6ローテーション実施）
5. 対象者：平成31年3月企業への就職希望者約名90（子ども育成学部一部含む）
6. 内容：① 開会挨拶（中島学長）
②各ブースにて事業内容や採用計画についての説明を受ける（20分×6回）
③ 企業と教職員との情報交換（随時）
④ アンケート記入
⑤ 閉会挨拶（上坂キャリア支援センター長）
7. 学生への事前説明会
日時：平成31年1月23日（水）13:00
場所：大講義棟I
内容：企業研究、事前教育・諸注意、マナー指導等

【実施内容】

- ・平成31年3月7日（木）（参加者企業 68社、参加学生 68人参加）
※ 1人6社企業訪問をすることを指導
- ・平成31年3月8日（金）（参加者企業 68社、参加学生 70人参加）
※ 1人6社企業訪問をすることを指導

【評価と今後の課題】

毎年実施している事業で、企業側からのアンケートを参考に少しずつ改善を図っている。昨年度は参加企業数が多く、企業を絞り込んで参加依頼を実施したので、昨年度より企業数は減った。例年より企業側と学生とが説明を聞く機会が多くなった。また、これは、昨年度企業アンケートによる要望があり実施した。今年は迷いもなく以前より移動がスムーズに進んだ。事前に訪問する企業を記載させ絞り込ませた状態だったが、企業研究が十分になされていない状況で今後の課題である。また、昨年度より実施した企業より1回20分では企業説明をするのに時間が短すぎると要望があり再検討する。

【実施計画】

③「平成30年度 富山国際大学 就職活動に向けた企業研究会」

1. 目的：このイベントは、平成30年度初めての事業であり、本学卒業生に來校していただき、就職活動を控えた現3年生との交流を図ることを目的としております。交流内容は、卒業生に現在働いている企業の紹介、仕事内容などを話していただき、3月に控えた就職活動の情報公開に向けて企業研究を進めると同時に現3年生とOBとのネットワークを構築する。
2. 日時：平成31年2月15日（金）13:00～15:20 企業研究
15:30～16:30 情報交流(OB交流)
3. 場所：富山国際大学 東黒牧キャンパス 厚生棟内（学生食堂）
4. 対象：2020年3月卒業予定者（現3年生）約90名（留学生含む）
5. 内容：企業研究は、個別テーブル形式で実施

- ・1回の説明25分×4回のローテーション(移動5分間)

【タイムスケジュール】

開会挨拶	13:00 ~ 13:10
趣旨説明	13:10 ~ 13:25 (学生入場)
第1回目	13:30 ~ 13:55 (移動5分)
第2回目	14:00 ~ 14:25 (移動5分)
第3回目	14:30 ~ 14:55 (移動5分)
第4回目	15:00 ~ 15:25 (移動5分)
情報交流	15:30 ~ 16:30
閉会挨拶	16:35 ~ 16:40

【実施内容】

- ・平成31年2月15日(金)(参加者企業 33社、参加学生 73人参加)

※ 1人6社企業訪問をすることを指導

- ・懇親会

【評価と今後の課題】

このイベントは、平成30年度初めての事業であり、企業内容について人事担当者に聞きにくい事をOB・OGに聞き企業研究を実施した。情報交換会では、会場が狭く学生とOB・OGとのコミュニケーションがうまく機能しなかった点について検討する。

(5) 学生相談に関する事

【実施計画】

- ・カウンセラー・支援委員の来校日の調整及び保護者相談会に関する業務。
- ・学生個々には、求人票・ガイダンス情報の案内、送付状やお礼状の書き方指導等を行い、「進路登録カード」には相談内容や受験先・証明書発行先など就職活動状況を記載する。
- ・尚、子ども育成学部でも独自の学生相談業務を行っている。

【実施内容】

- ・学生の予約(予約表で管理する)
 - i. 原則週5日間実施し一人に対して1時間相談。
 - ii. 内容については、進路登録カードデータに記載し個人データとして共有する。最近、心の病の学生が増えてきているので、その様な学生は、相談回数が増える傾向にある。また、自立できない学生が増えてきている。
 - iii. 予約の際は、カウンセラーと相談して、なるべく多くの学生が受けられるように配慮し相談受付をする。

【履歴書・エントリーシート・模擬面接指導】

- ・富山県職業安定所から、週1日(木曜日 午後から3時間)相談員が来て、企業情報や就職相談に来校
 - i. コーディネータとして、キャリアカウンセラー資格者1人・元民間企業人事担当者1人来ていただき、相談(企業情報)・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)をする。内容によっては、ゼミ担当、キャリアカウンセラーと情報交換しながら実施する。
 - ii. 事務職員は、学生がカウンターに来たら、相談(企業情報)・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)をする。内容によっては、ゼミ担当、キャリアカウンセラーと情報交換しながら実施する。
 - iii. 3・4年次生の学生を対象に、就職に苦勞をする学生の保護者をリストアップして、金曜日、土曜日を設定して、保護者相談会を実施。センター長と実施時期を相談して、臨機応変に実施する。(8月)
 - iv. 該当保護者に開催通知発送 → 相談時間を調整 → 情報収集(専門学校・求人票等)
 - v. 総務課で、相談内容のアンケートを実施し、就職相談要望の保護者と面談する。(6月)
 - vi. 学生課で、相談内容のアンケートを実施し、就職相談要望の保護者と面談する。(10月)

【評価と今後の課題】

- ・学生が予約しても、無断で予約日に来ないケース数例あり、学生に連絡をするが、忘れていたとか、急にガイダンスが入った等の理由が返ってくるが、学生に対して社会的マナーに反しているため、厳重に注意をしている。
- ・また、学生の性格を見て、数人の面接指導を受けた方が良いと感じた学生には、その様に指導をしている。
- ・保護者の方と面談する事により、学生の見えなかった一面が見えてくるので、次回の学生対応に役立っている。

(6) 企業訪問・新規開拓に関すること

【実施計画】

- ・就職先内定お礼訪問、新規開拓企業訪問を行う。
- ・就職状況報告書を参考に、内定した企業にお礼に行く。次年度の採用計画も聞いてくる。
- ・新規開拓・OBOG 内定企業
進路登録カードの希望企業を参考に、情報収集に行く。
- ・コーディネータ(民間企業人事経験者)企業開拓。
- ・緊急対応企業(内定辞退等)
基本的には、学生に謝りに行かせる。大学からも謝りに行く。

【実施内容】

- ・昨年度より、重複内々定をする学生が増えて、内々定を辞退した企業に対して事情説明をして謝罪しにしている。
- ・新規開拓等について
 - i. コーディネータ(民間企業人事経験者)が中心に企業開拓実施
 - ii. 大手企業の支店での新規採用開拓を実施し、内定まで進めた。
 - iii. 学生の希望を聞いて、富山県内の中小企業人事担当者をお願いして、内定まで進めた。
 - iv. OBOG 内定企業
- ※卒業生で、社会経験のある人材のお願いがいがあり、卒業生が活躍しており、大学を信頼して依頼に来られた。
- ・緊急対応企業(内定辞退等)
昨年度より、内々定を頂いて断った事例が増え、直接企業にお詫びに行っている。
※基本的に、内々定を辞退するときは、本人が直接企業に出向きお詫びする事を指導している。

【評価と今後の課題】

今年度は、内定辞退者多数出たので、辞退した企業に対して謝りに行った。また、10月を過ぎて内定を辞退する学生が出てきて、学生は勿論、教職員も早急に人事担当者に謝りに行った事例があり、次年度は、慎重に企業選択する様に指導する。

(7) インターンシップに関すること

【実施内容】

- ① 受入先候補の決定および受入依頼は、富山県インターンシップ推進センターが運営するWEBサイト「INTERNSHIP NAVI とやま」に学生が申込登録し、受け入れの承認をいただいた企業から、順次事務手続きを行った。
今年度のインターンシップに参加した学生は、環境デザイン専攻13名、観光専攻11名、経営情報専攻22名の計46名である。マッチングが成立し、学生が研修を行った企業・機関等は、31にのぼる。そのうち9つの企業・機関には、各2名以上の受入れをしていただいた。
- ② 受入先と参加学生とのマッチングは、学生の希望に基づいて行ったが、希望に沿えなかった学生については、話し合い等により研修先を決定した。その結果、最終的には学生の希望に応えられる業種・職種の受入先を確保することができました。
- ③ 受入先には、受入条件確認書記載の内容で依頼した。昼食費・通勤費等については、学生の自己負担としている。研修期間中の事故に対応するため、学生負担による「学研災・賠償責任保険」への加入も行っている。
- ④ 事前に、『覚書』(大学と受入先間)を締結し、受入先に対しては学生の『同意書』を提出した。

【評価と今後の課題】

昨年度より、平成30年度より、インターンシップナビとやま登録に学生登録→エントリー→選考結果が届く→インターンシップ参加の流れで実施することになった。これにより、受け入れ決定が遅い企業があり、決まらない学生は学内のインターンシップスケジュールに合わなくなるケースがあり、この流れに対して対応策を検討する必要がある。

(8) 研修プログラム

受入先の個別的な事情を反映させるべく、研修プログラム(実習内容)の作成は、基本的には受入先に委ねている。ただし、過去に研修内容につき当該学生・大学からの要望提出や協議を望まれた研修先に対しては、可能な

限り、その要請に応えるよう努めた。

【評価と今後の課題】

1day インターンシップについては、今後参加学生が増える傾向であるので、保険等の確認をして参加させる。

(9) 大学コンソーシアム富山に関すること

富山県内7高等教育機関に所属する学生（主に3学年）を対象とした県内企業の訪問研修を立案・企画の実施（県事業）。

【実施計画】

①事業概要

本事業は、県内の7高等教育機関に在籍する学生が合同で県内企業等を訪問し、実際の就業現場を見、そこで働く方々の声を聞くことで県内企業等の魅力を知るとともに就業意識の向上をはかる。また、企業等を訪問するだけでなく、事前・事後学習を通して自らのキャリア・デザインに主体的に取り組むことを目的とする。

事業名：大学コンソーシアム富山教育連携部会 合同企業訪問

実施機関名：公立大学法人 富山県立大学

開催日時

平成30年9月10日（月）13時00分～17時（コース別ミーティング）

平成30年9月14日（金）9時00分～17時（職場訪問研修）

平成30年9月20日（木）9時15分～17時（職場訪問研修）

開催場所：富山県富山市五福3190番地

国立大学法人 富山大学（五福キャンパス）共通教育棟

参加人数

・学生86名 教員3名

事業内容

・平成30年9月10日（月）13時00分～17時

マナー講座及びコース別ミーティング

“職場訪問研修のためのビジネスマナー

講師（株）理想経営 キャリア開発コンサルタント 伊藤恵美様

終了後、コースごとに訪問企業について話し合を行い質問事項をまとめた。

・平成30年9月14日（金）9時00分～17時8コース（16社2機関）

平成30年9月20日（木）9時00分～17時7コース（15社）

企業等職場訪問研修

場所：富山大学（五福キャンパス）

内容：コースごとにバスにて各企業等（31社2機関）を訪問

午前・午後各1事業所、12コース

午前1・午後2事業所3コース

訪問先各企業等の事業内容等について先輩（若手）社員から説明を受けるとともに意見交換や質問を行った。

富山大学へ帰着後、当日の訪問した企業等の内容についてコースごとに意見交換を行い、アンケートを提出。

【評価と今後の課題】

- ・訪問研修の企業選定については、選定企業について、昨年度の反省を踏まえて、中小企業も入れて実施した。
- ・対象学年を1年生・2年生も含めて幅広く応募する事が決まったが、富山国際大学は、就職活動を踏まえ3年生対象として参加した。

6. 国際交流センター業務

(1) 海外教育機関との協定

毎年、海外協定校の見直し、新規拡大を行っており、平成30（2018）年度は英語圏の留学先を広げること、ロシア語留学先の多様化、中国の編入生拡大を目指した取り組みを行った。英語圏の留学先調査に教員を1名イギリスに派遣し、数校を訪問調査し、最終的にサセックス大学との協定締結に向けた協議を行った。また、アメリカのミズーリ州立大学とも協定関係について協議を行った。サセックス大学、ミズーリ州立大学共に2019年度の調印

を目指して協議を行っている。ロシア語留学先としてウクライナのオデッサ大学と協議を行い、協定締結の運びとなった。中国では信陽師範学院との間で学術交流協定及びダブルディグリー協定締結に至った。これにより本学の協定校は11カ国22大学となった。

①新規学術交流協定校

- ・オデッサ大学（ウクライナ） H30(2018). 5. 21
- ・信陽師範学院（中国） H31（2019）. 3. 1

表1. 学術交流協定大学一覧

NO.	協定校名	国	地域名	締結日
1	Portland State University	USA	Oregon	1999. 2. 10
2	University of Lethbridge	Canada	Lethbridge	2016. 5. 26
3	Southern Cross University	Australia	East Lismore	2013. 2. 6
4	La Trobe University	Australia	Melbourne	2004. 4. 20
5	EMBA - Ecole de Management de Bretagne Atlantique(旧 ISUGA)	France	Quimper	2002. 7. 15
6	Vladivostok State University of Economics and Service	Russia	Vladivostok	2005. 10. 12
7	Far Eastern University	Thailand	Chiangmai	2008. 2. 18
8	中国海洋大学	中国	山東省青島市	2004. 7. 1
9	鶴崗師範高等専科学校	中国	黒竜江省鶴崗市	2011. 9. 26
10	大連海洋大学	中国	遼寧省大連市	2006. 9. 12
11	南通大学	中国	江蘇省南通市	2013. 12. 31
12	ハルビン理工大学(栄成学院)	中国	山東省栄成市	2014. . 5. 14
13	遼寧師範大学歴史文化旅遊学院	中国	遼寧省大連市	2010. 12. 2
14	鞍山師範学院	中国	遼寧省鞍山市	2016. 6. 6
15	聖公会大学校	韓国	ソウル市	2005. 3. 22
16	大邱大学校	韓国	慶山市	2007. 3. 23
17	大邱韓医大学	韓国	慶山市	2017. 1. 14
18	ラーチャモンコン工科大学	タイ	ナーン県	2017. 5. 1
19	マルタ大学	マルタ	イムシーダ	2017. 12. 11
20	セントラルフィリピン大学	フィリピン	イロイロ	2017. 1. 31
21	オデッサ大学	ウクライナ	オデッサ	2018. 5. 21
22	信陽師範学院	中国	信陽市	2019. 3. 1

②ダブルディグリー(2+2)協定校

- ・信陽師範学院と協定締結を行った。

(2) 日本人学生の海外留学・海外研修参加者

現社は前年度に比べて大幅な増加となった(表1)。その要因の一つは、研修プログラムの多様化である(表3)。専門研修が増えたこと、研修期間が5日間とショートプログラムを用意したこと、更にヨーロッパ、アジア圏にと文化背景の異なる地域での開催などで、学生の様々なニーズをつかんだ結果、初参加者もリピーターも増加した。海外初経験者にとっては参加しやすくなったと言えよう。また、海外経験者にとっても他のプログラムへの参加意欲を掻き立てることが出来た結果でもあると言える。

表2. 学部毎の海外派遣学生数

海外派遣総数	2016		2017		2018	
	現社	子ども	現社	子ども	現社	子ども
各学部	57	12	54	27	80	18
留学	10	1	7	0	9	2
インターンシップ	3	0	0	1	2	0
研修（教員引率）※	44	11	47	26	69	16

※異文化研修、国際交流実習、ゼミ研修、グローバルキャンパス

表3. 海外留学派遣国内訳 H30（2018）年度

留学内訳	2018		
	合計	現社	子ども
アメリカ	1	1	0
カナダ	1	1	0
オーストラリア	2	1	1
マルタ	3	2	1
フランス	0	0	0
中国	1	1	0
韓国	1	1	0
ウクライナ	2	2	0
留学合計	11	9	2

新規協定校が増えたことも留学数増加の要因となっている。ウクライナのオデッサ大学へ初めて留学生を送り出すことが出来た。また、昨年度協定校となったマルタ留学も人気があり、短期・長期留学共に増加している。

表4. 海外研修プログラム参加者数

海外研修内訳	2018		
	合計	現社	子ども
中国・異文化研修	8	7	1
韓国・異文化研修	13	10	3
カナダ・異文化研修	10	1	9
マルタ・異文化研修	9	9	0
タイ（国際交流実習）	7	6	1
デンマーク・環境研修	9	9	0
シンガポール・観光研修	20	18	2
カナダ・インターンシップ	2	2	0
ゼミ研修（中国、イギリス）	9	9	0
研修合計	87	71	16

アイベック奨学金：英語圏への6ヶ月以上の留学を促進するために、株式会社高見さんより個人資金の提供を頂いた。H30（2018）年は前年度の繰越金があったため、以下の3名に授与した。青木志保（カナダ）、田村 駿介（オーストラリア）、岡本瑠璃（マルタ）

(3) 外国人留学生受入数（交換留学生を含む） 31名（表4）

表5. 年度別外国人留学生受け入れ数

入学年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
学部1年生入学	14	20	25	19	10	16	11	8	6	9	6
編入学(2+2)	0	0	0	0	4	2	2	1	9	9	2
交換留学	17	17	14	15	17	15	10	9	14	19	22
研究生	0	8	7	7	0	8	5	0	3	2	1
留学生総数	31	45	46	41	31	41	28	18	32	39	31

表6. 外国人留学生の出身国別数

出身国別在籍留学生（2018年度）

	中国	韓国	ネパール	ベトナム	ロシア	ウクライナ	計
1年生	3			3			6
2年生	7	3	1				11
3年生	5	1					6
4年生	14	1					15
正規生計	29	5	1	3	0	0	38
交換留学	17	3			1	1	22
合計	46	8	1	3	1	1	60
国別 (%)	76.7	13.3	1.7	5.0	1.7	1.7	

平成30（2018）年度正規入学生出身校

表7. 平成30（2018）年度正規入学生出身校

出身校	人数	所在国	氏名
天津社会科学院	2	中国	接子豪、辛可欣
鞍山師範学院	2	中国	張馨元、陳璐
富山国際学院	2	日本	レ・ダン・ヴィエット・フン、ファム・ホン・タイ
富山情報ビジネス専門学校	1	日本	祁鑫
高岡法科大学（科目等履修生）	1	日本	ヴァーチ・コン
合計	8		

3. 日本文化体験に参加した留学生数

留学生の多くが各種イベントに参加し、日本人との交流や日本文化理解に努めている

。表8. 国際交流に関するイベント・研修等への参加学生数

	事業名	期間 H30 年	参加人数
1	留学生県内研修（市内、花見）	4月7日（土）	20
2	留学生県内研修（白川郷、砺波チューリップフェア）	4月28日（土）	21
3	留学生就職説明会	7月18日（水）	15
4	寿司職人による巻き寿司講習	8月1日（水）	15
5	留学生県内研修（黒部峡谷）	11月3日（土）	28
6	富山市国際交流フェスティバル（留学・海外研修報告）	11月11日（日）	18
7	生け花を体験しよう	12月13日（木）	18
8	留学生総会・懇親会	12月14日（金）	45

（4）留学生の学修状況

留学生には進級までにN2を卒業までにN1を取得すること義務付けている。しかし、受験しない者がいるため、合格率（取得率）はN2が57%、N1が34%に留まっている（表4）。但し、4年生に限ってみるとN2は8割、N1取得率は7割近い学生が合格しており、昨年度に比べると合格率が上がっている。

表9. 日本語能力試験合格者数

	在 student 数	N1 取得	N2 取得	合格者氏名													
				N 2	コ	ン	フ	ン	祁	鑫							
1 年生	6	0	3 (50%)	N 2	コ	ン	フ	ン	祁	鑫							
2 年生	9	1 (11.1%)	2 (22.2%)	N 1	ソウガット												
				N 2	王	闖											
3 年生	8	2 (25%)	5 (32.5%)	N 1	徐	安	然	張	馨	元							
				N 2	梁	希	悦	徐	州	王	騰						
4 年生	15	10 (66.7%)	12 (80.0%)	N 1	何	夢	傑	刘	泽	孫	婷	婷	王	坤	吴	燕	南
					秦	玥	張	皓	琳	黄	河	舟	周	力	珩	葛	天
				N 2	高	燕	阎	泽									
合計	38	13 (34.2%)	22 (57.0%)														

※()内は取得率

※N1 合格者はN2 合格済みとしてカウントし、N2 合格者数に含めた。

※N2 合格者はN1 未受験又はN1 不合格者である。

（5）平成 30（2018）年度奨学金受給人数（平成 30 年 5 月 1 日現在）

留学生に対する奨学金は大学独自のものと外部からのものがある。大学独自のものは協定校から入学した学生全員に支給されている（ただし編入生は上限 2 年間、1 年生入学生は 4 年間としている）。外部の奨学金は、成績、経済状況、授業態度などを評価指標として国際交流センター運営委員会で推薦順位を決定している。平成 30(2018)年度は以下の学生に授与された。

表 10. 奨学金受給者、平成 30(2018)年度

奨学金名	金額	受給	氏名
------	----	----	----

	(月額)	人数					
富山国際大学奨学金	20,000円	27					
	40,000円	1	梁亨錫				
富山県国際交流奨学金	50,000円	4	秦 玥	周美岑	孫家桐	孫夢奇	
	10,000円	2	祁 鑫	グーチ・コン			
J a s s o 学習奨励費	48,000円	1	王 坤				
朝日国際教育財団	35,000円	5	高 燕	黄河舟	徐安然	梁希悦	王闢

※国際大奨学金

20,000円→後期は21人

(6) 留学生の進路 (2018年3月卒業及び修了生)

H30(2018)年度の学部卒業生は11名、そのうち4名が大学院進学。他の4名が研究生として進学した。就職したものは1名のみで県外企業に就職。

表11. 大学院進学 (学部卒業生)

No.	氏名	出身国	進学先
1	劉 蘊擘	中国	富山大学大学院(理工学教育部)
2	李 清宇	中国	富山大学大学院 (人文科学研究科)
3	劉 澤	中国	富山大学大学院 (芸術文化学研究科)
4	閻 澤	中国	京都情報大学院大学
5	劉 合	中国	富山大学 (研究生)
6	王 坤	中国	北海道大学 (研究生)
7	秦 玥	中国	富山大学 (研究生)
8	高 燕	中国	富山国際大学 (研究生)

※5-8は研究生

(7) TOEIC 受験者数と結果

TOEIC IP の学内実施は、5月12日には14名、12月1日には13名が受験した。結果は5月には500点以上4名、600点以上1名、700点以上2名、12月には500点以上4名、600点以上1名だった。また、外部のTOEIC試験受験者(カナダ留学後に受験)は835点だった。700点以上は何れもカナダ留学経験者のスコアであり、留学の効果を示す結果となった。

- 1) 第1回 TOEIC IP テスト実施 H30年5月12日 受験者14名
- 2) 第2回 TOEIC IP テスト実施 H30年12月1日 受験者13名

表12. TOEICIP テスト学部ごとの集計結果

試験日	現代社会学部			全学	全学
	2016.10月	2017.4月	2017.9月	2018・5月	2018・9月
受験者数	6	13	9	14	13
~470	2	6	6		

470～599	4	5	3	4	4
600～729	0	2	0	1	1
730 以上	0	0	0	2	
800 以上	0	0	0	0	1
平均点	458	468	409		
最高点	585	630	565		

(8) チェルネット (クラウド

型英語学習教材スーパー英語) を私立大学改革総合支援事業経費で導入し、在学

生全員及び教職員の希望者が無償で使えるようになったが、利用率は低い。継続的に利用している学生は少数に留まっている。そのため、2019年度は以下の取組みを行う予定である。

- 1) 1年全員に対する説明会 (英語の時間) を行う。その際、実際にログイン、パスワード変更、一部の教材体験までさせる。
- 2) 今年度は必修英語の時間の一部をチェルネット利用に充てることを検討中。
- 3) 具体的には教員が授業時間に解説したり、宿題を課すなど。
- 4) 専攻長から必修英語の先生方にもチェルネットの利用を依頼する。

(9) その他語学関連の取組み

- 1) English Café700 名利用者有るも運営が課題。
- 2) English Camp は2学部から 17 名が参加した。
- 3) グローバル人材 1 名取得 (現代社会学部・中国語 HSK 5 級)。
- 4) ロシア語スピーチコンテスト 1 名朗読部門優勝。
- 5) 今年度は子ども育成学部の 6 名の学生と現代社会学部の 1 名、計 7 名が応募し、内の小学校で「英語学習パートナー」として活動した。県教委と派遣小学校から好評をいただいた。

(10) チューター制度の実施

日本人 4 名、留学生 9 名がチューターを行い。日本人チューターは基礎日本語や日本語補習授業に参加して会話練習の補佐を行った。休み時間中に日本語以外の授業のノート指導をする学生もいた。留学生チューターの内 4 名が韓国人、5 名が中国人で、主にそれぞれの語学授業でのアシストを行った。このようなチューター制度を通して、留学生と日本人学生の友達の輪が広がっていることを感じている。

表 13. チューター参加者 平成 31 (2018) 年度

No.	学籍番号	氏名	国籍
1	2018G060	柴田 湊奈	日本
2	2018G124	米村 紗希	日本
3	2018G036	金森 美樹	日本
4	2018G089	早川 遥花	日本
1	2016G501	梁 亨錫	韓国
2	2017G050	崔 允二	韓国
3	2017G084	洪 恩恵	韓国
4	2016G558	崔 精仁	韓国
5	2015G117	劉 澤	中国
6	2018G073	接 子豪	中国

7	2016G034	徐 州	中国
8	2016G008	王 騰	中国
9	2015G955	孫 家桐	中国

(11) 国際化への取組み

- 1) サマースクール（中国の大学生対象 14 名参加）
- 2) 海外大学との教員交流
- 3) 受け入れ（邵講師—南通大学から 6 ヶ月間）
- 4) 派遣（鞍山師範大学へ 2 週間）1 人

(12) 教職員のグローバル化に向けての取組み

1) 英語で対応するための SD 研修会

日時：8 月 28 日（火）13：30～15：00

場所：本部棟 2F 会議室及び呉羽 E 館会議室（テレビ授業）

研修内容：英語で電話を受けても慌てなる必要なし！

講師：マーク・フランク現代社会学部准教授

参加者 12 人

2) 英語で授業を行うための FD 研修会の開催

日時：8 月 9 日（木）14：00～15：30

場所：現社・AL 教室、子ども育成・E204

研修内容：学生の興味を引き出す英語での授業の進め方

講師：Mark Frank 准教授（現代社会学部）

参加者：現社 15 人、子ども育成 14 人

3) 韓国大邱大学との国際シンポジウム開催

6 月 26 日、現代社会学部東黒牧キャンパスにおいて、本学の海外協定校である韓国大邱大学校経商大学より李元敦（イ・ウォンドン）学長先生をはじめ 5 名の先生方をお迎えして、「富山国際大学現代社会学部—大邱大学校経商大学 学術交流国際シンポジウム」を開催しました。両大学 2 名ずつの教員が「マーケティング分野」、「地域観光マネジメント分野」での研究成果を英語で発表し、約 70 名の学生・教職員が聴講した。

(13) 成果と課題

- 1) 学生、教員のグローバル化を目指した取り組みを行ってきた。学部教育では英語教育の充実、海外派遣の促進など、前年度に比して着実に進んでいる。英語専攻の学生たちが高校生向けの English Camp で堂々と英語で司会進行を行っているのを見ると、少なくとも英語国際キャリア専攻の努力とその成果を伺い知ることが出来る。この一部学生の成果が、全学的に波及することを期待している。

2019 年度はこれまでに増して海外留学をする学生が増えることから、危機管理体制の整備が急がれる。早急に確立したい。

- 2) 海外派遣学生数留学、海外研修プログラム参加とも増加している。これはプログラムの多様化（地域の拡大、研修目的の多様化、研修期間の多様化）などが要因としてあげられる。社会的な要因として経済的な安定、就職率向上なども挙げられる。今後もプログラムの見直しは必須項目として検討すべきである。例えば、異文化研修オーストラリアは数年間提示しておりながら、実施したのは 1 回しかない。オーストラリという地域や文化に興味のある学生が多いことから、魅力ある研修プランを作ることは可能だと思われる。更なる海外派遣学生数増加を目指すため、予算執行の効率化を図る点からも、早急な検討が必要である。
- 3) グローバル副専攻に 14 名の学生が登録していたが、平成 30（2018）年度は 1 名の学生のみでの認定となった。それだけに価値のある修了書、能力を証明する修了書となっている。語学基準だけを突破できない学生が殆どなので、それだけに語学の勉強に 1 年生の段階から卒業するまで取り組むことを習慣化したい（雰囲気をつくっていかねばならない。チエルネットの有効活用もその一つである。それには英語教員の関与が欠かせない。英語教員と協力して利用促進を図る。